ACTION COMICS
ポルノ・グラフィティ
とみさわ千夏
Chinatsu Tomisawa
Porno graffiti
1

ACTION COMICS

ポルノグラフィティ

Porno graffiti 1

とみさわ千夏

Chinatsu Tomisawa

Pornno graffiti

Contents

第1話 サマーフラッシュ …… 7
第2話 健児の嫁 …… 37
第3話 さくらんぼ芸者 …… 67
第4話 未亡人下宿「手記」より …… 97
第5話 ソファーの海（前編） …… 127
第6話 ソファーの海（後編） …… 151
第7話 ビューティフルサンデー …… 177

第1話 サマーフラッシュ

ポルノ・グラフィティ

Porno graffiti

試してみる？

4時間前…

え？

はい…？

何度か目が合う
一人の女性がいた
「あれ どこかで…？」
「誰だっけ？」「……」
「もしや！」
思い出したのは
海のポスターを背にした
時だった

えと…
ナ…
あ

オキナワの……

…

彼女も目が合い
「あれ？」という
気持ちはあったが…
思い出せないのか…

妻の名前と
当時の職場を
口にした時

あ
あ——
ヒロミさんの
……

あ
あ——海行った…

やはり…
だった

二十数年前

うえ〜〜〜？
軽？
カッチョ悪ぅ…

だって〜〜〜
クーラー付きに
してって ノブちゃん
言ったじゃん 今日
残ってたの これだけ
なんだって…

一週間泊まりがけの
仕事から 眠い目こすり
待ち合わせ場所へ直行

付き合っていた
ヒロミ

えっと…

この後 私の
妻になる

お気をつけて〜

お

おー

予約を頼んでいた
レンタカーで海へ
ヒロミと…

駅の
ロータリー
ロータリー

あ

いた

＋ヒロミの同僚
＋後輩ちゃんと

久しぶり
ノブちゃん

おお

コンニチワー

あ
この娘
知ってるよね

あ
ああ

えと
オキナワ
出身の…

これ
ヒロミの
彼氏！

ヘェー

田花です

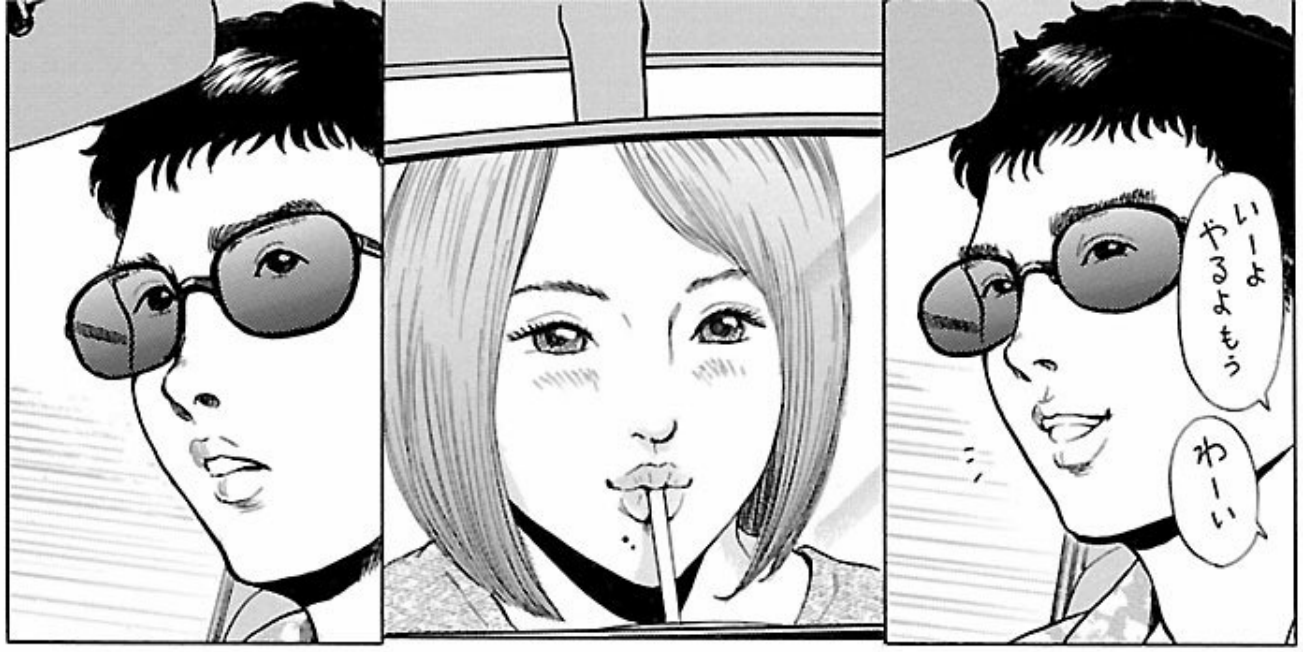
奈穂です

そうそう

あ――
この娘ってば
私のシェイク
飲んじゃってる
よ

ん――
ちょっと
味見
――

ちょっと
待ってって
言ったのに――
あ、こんなに…



え〜〜〜〜
寝ちゃうのー？

あんま寝てないんだ
運転も神経
使ったし…

泊まりがけの
仕事は大変
だよね

しょうがない
私らだけで…

そーして

どのくらい時間がたったろうか
キャー
キャハハ
ダバーン
キャー
30分…？
40分…？
いや1時間くらいか…
軽い睡眠で痛いくらいの朝勃ち
ぬるい海へ
どこ行ったんだ？
あこっら
うっ…
チィー
プル
ノブちゃんさ――ん

あ…

ああ この娘は やっぱり カワイイなー

おっと…

離れて

あれ？

あいつらは…？

向こうの プールで バンドが演奏 してるからって それ見に…

バンド…!?

あ 男の子たちに 声かけられてたから ナンパされて 一緒にいるかも

え〜〜〜〜っ

あ…

何だ そりゃ!?

ザ。
ザアン。。
キャッ
おとと…
ガシ
ドキ
ここらへん波がザッとなるからさ沖の岩の方行こ
ん
うん
2人きり……
ノブちゃんさん…てカッコイイですよね
え…
ザア。。

キャッ
ズァ。
うわっ!!
チュー
あ…
ザァ。
波が来るたび
体のいろんな
ところが
触れ合う
頬 肩 脚
下半身…
尻…
岩場に
着き
キャ
ザァァァ
おーとと
2人
腰かけた
ガシッ
流されない
よーに…
オイル
塗ったから
すべるかも
……
んー?

んなことないよ
あっ
ハァ…
抵抗はなかった
脚の方とか…
脚？
全然…
あっ
指が吸いついたように離れない…
彼女の方も抵抗するどころか脚を広げ…
ハァ…

「大丈夫
周り 誰も
いないから…」
彼女が言った
そうだ 大丈夫

浜の方から
だって
見えっこない

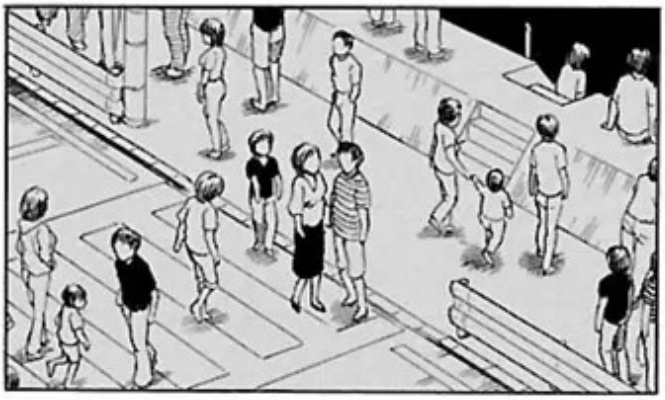
水の中ならなおさらだ

「ナンパされて
ついてっちゃったかも…」
ウソとは思うが
仕返しのつもりもあった

大丈夫!!
この娘は
僕を好いて
いる…

じゃ

海上花火大
海上花火…？
ちょうどいい日に当たってラッキーだったね
よかったー場所とっといて
ノブちゃん飲み物買ってきてー
コンビニで
お菓子も
海の家売り切れだってー
おうん
あじゃあ私も一緒に……
連れてきてもらって何もしてないからお金は私が…
おえらーい



アイスもねー
うおーい

ス…
ピク…
…

ノブちゃんさん…？
え？どこに…？
ん？うん
ザッ
ザッ

ハァ…
チュプ…チュ…
ハァ…
ん…
ハァ…
チュ…
だ 誰か 来たら…
大丈夫だって…！
チュ…
どっかの民家の裏庭 昼のつづき…
み… 見られたら…？
ア…
ハァ…
誰も来ないって…
ハァ…

大丈夫かな？あの2人…

え…？

ん あの娘 人の物 取っちゃう クセあんじゃない？

ペンとか… シェイクとか いつの間に…

いいなぁ ちょうだいって

まだ 怒ってる

盗みグセってわけじゃないんだけどねェ… いつの間にか…

腹立たない のも不思議な とこでさ…

岩んとこの2人 怪しくなかった？

大丈夫よ

ほら 始まったよ

ハァ…

ハァ…

ン…

アッ

あ…

しちゃった…

ドー

アッ

アッ

ギャッ

ギャッ

ギャッ

2週間以上
ヒロミとは肌の
接触はなかった

快感の中

ア…
ア

アンア

ア

激しく腰を
打ち続け
それは
ものの数分

あ…

アッ

アアッ

…

ハァ

ハァ

ハァ

イッても
萎えもせず
…

中でいい…と
彼女は言った

彼女の中

そして
ソレは
やってきた…

どうして
……？

ヒロミさんが
いるんでしょ？

言いようのない快感がやってきた
あ…
なんだこれは…!?
性器が吸い込まれるような下半身が飲み込まれるような
あ…
ああ…
ハァ…
また…
出る…
ヒロミさんが好きなんでしょ
ハァ…
あ
あ
2度目
あ
アッ

2度目は その
言いようのない
快感のまま

体の中のもの
全てを
注ぎ込んだ

ドー

ドー

お待た…

チャリ…

あっ
やっと来た!!

おそーい

ダメ!
コンビニ
すんごい並んでて
もう品物もないし

わき道で
自販機探してたら
時間くっちゃって
……

草むらにお金
落とすし
それも探して…

ドー

その女性
奈穂とは
それきり
だった

数ヵ月後
ヒロミとは
「できちゃった婚」
職場を辞め
会うことも
なくなった

ク〜〜…

その後 彼女も
職場を
去ったという

ホクロ…かな…？

二十何年も
たってるでしょ
顔だって
変わってるし
忘れるんじゃ…？

やっぱり
ホクロで憶えてた
……？

ンギャ
ンギャ
ノブちゃん何見てんの？
ん…
いや
198
海

彼女はバツイチ娘が一人という
あなたの子よな〜んて…
年齢的に私の子ではない
「ちょっとお茶でも…」…が食事になり
できちゃった婚？
そりゃヒロミさんにはめられたんだわ
そしてアルコールに変わっていった

そしてあの夜の話題に…
あれは素晴らしかったあの快感は…ヒロミ以外 何人かの女性ともそういう関係にもなったがあのような快感はあれ一度きりだ
それは若さからなのか？背徳感がそういう快感を呼んだのか…？

それとも
体質的なもの
そういう体なのか

試して
みる？

私なりに
精一杯
ほめたつもりだ

ドクン

声をかけた時
人違いだったら

そのまま
ナンパにでも
切り替えようか
そういう気持ち
でもいた

ドクン

怪しい動悸が
胸の奥で久しぶりに
高鳴る

ドクドクン

このくらいの
年齢になると
こういう話は
スムーズに
進むらしい

あ…

快感は あった
それなりに…
ああ…
ごく普通の…
やはりアレは
若さゆえ…の
背徳感が
作り出した
あの時だけの
ものだったのか…
ん…!
んん!
下腹部に力を込め
キュッキュッと
締め上げてくる…
そんな姿が
いじらしかった

ヒロミさんは変わらず…？
ああ
ああ
一時期ちょっと太ってたけど
また元みたいに戻った…
外見はね…
でも
肌の張りはそれなりだ
肌の張り…？
・・してるんだ…
アッチ
どのくらい？
週一 二…
二週に一回かな
いや二回…
ヘェ…してるんだ
生理明けは連続とか
最近してないけど……
愛してるのね…
ああ…愛してる
幸せ…？
ああ
幸せ…かな…？

いいなあ
幸せで…

あ…

そっちも
幸せだって
言ってたじゃ
ないか…

ん〜〜〜ん

そっちの
幸せの方が
いい…

欲しい…

時間は充分
たっていた

ン…

二度目…

いいなあ…

ハァ…

……

ケ
ア

あ…
これだ!!
この感覚…!!
あ いい!!
アッ
いい…
アッ
いい…
な…ぁ
アン
どう…して…?
どうし…
あの娘 人の物
取っちゃうクセ
あんじゃない
いいなあ
ちょうだい…って
いつの間にか…

そうか…欲しいと思ったらその体が吸い取ろうとする

ン

意思とは関係なく…

ハァ…

どうして…？

こういう女なのだ…

ヒロミさん愛してんでしょ…？

どうして…？

第1話●END

第2話 健児の嫁

ポルノ・グラフィティ

Porno graffiti

真津美(まつみ)さん
ちょっと
一服すべ――

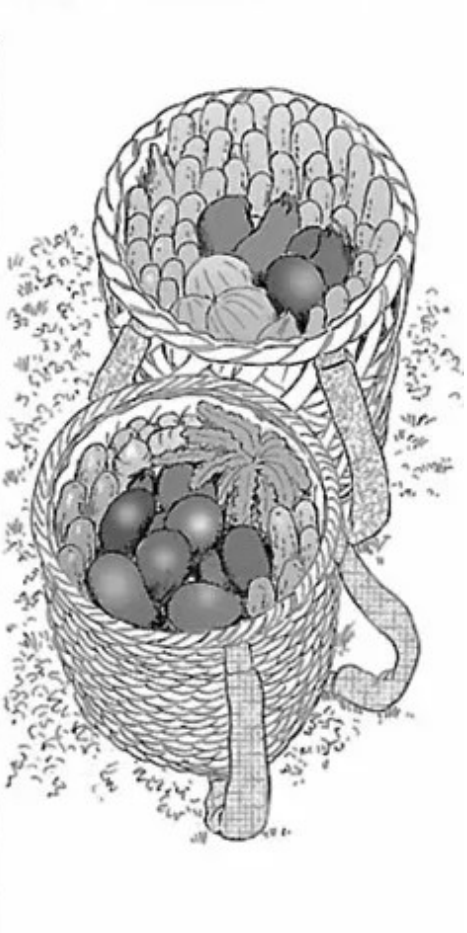
あ
はい

はい 真津美さん
どーも

真津美さん 健児さんからは まんだ何も？

母ちゃ!!
ズズ、

そんじゃ ウヂらはふもとの 旅館に野菜届けで そのまんま帰っちゃう んで…
それじゃね 真津美 さん



健児さん やっぱり もう 無理みたいだど
このまま ウチのヒロキの 嫁になって くれればエエのに
真津美は ヒロキの同学年 健児の嫁である
旅館 鶴姫
2ヵ月前……
ガヤ
ガヤ

ずいぶん急な祝言でねエげぇ？

ま 親同士は進めでだらしいけどな

ほら健児さ…

東京で水商売の女と暮らしでっとこ 首根っこつかまれで連れ戻されたど

ククッ…

えっ

オラ

色街の女って聞いたど

帰ってきて もう田 作れって

嫁でも取らせれば落ちづくべって…

でも まァよく急に嫁見つかったこど…

ヒソ

出戻りだど…

出戻り？

前に一回…

姑に嫌われで追ん出されだ経験ある女だっと

こらおメら

祝いの席だど

あ ヒロキ

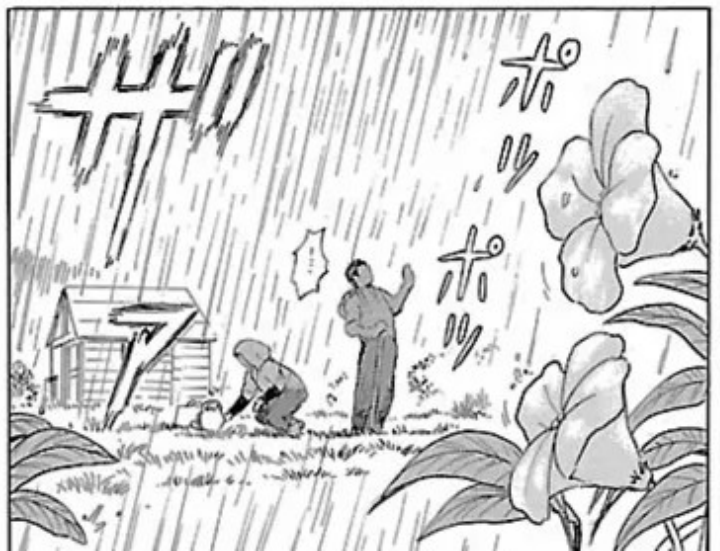
しかし それから
三日も
たたぬうち
彼女の事が忘れら
彼女と二人ひっそり
暮らします
捜さないで下さい
健児
健児は再び
東京の女のもとへ
旅立った
あんの
バガたれ
が!!
ごめんなさいね
真津美さん
もう健児の
ことは全て…
しかし
二度の出戻りは
さすがに世間体も
あって戻れず
何とか
置いていただけ
ないか…と
働きますから…と
しかし 健児の家の
稲刈りには日は
まだ遠く…

真津美さん畑の仕事があったど

ヒロキん家…あの田崎さんてとこで畑 拡張するんで人手欲しいって…
行ってみるが？

そしてヒロキの畑に来て一ヵ月半

よく働く
他人の嫁である



小屋へ…
ザッ
ザッ
ザッ
ギギ
バタン
濡れだ？
うん
少し…
しばらくの
雨宿り

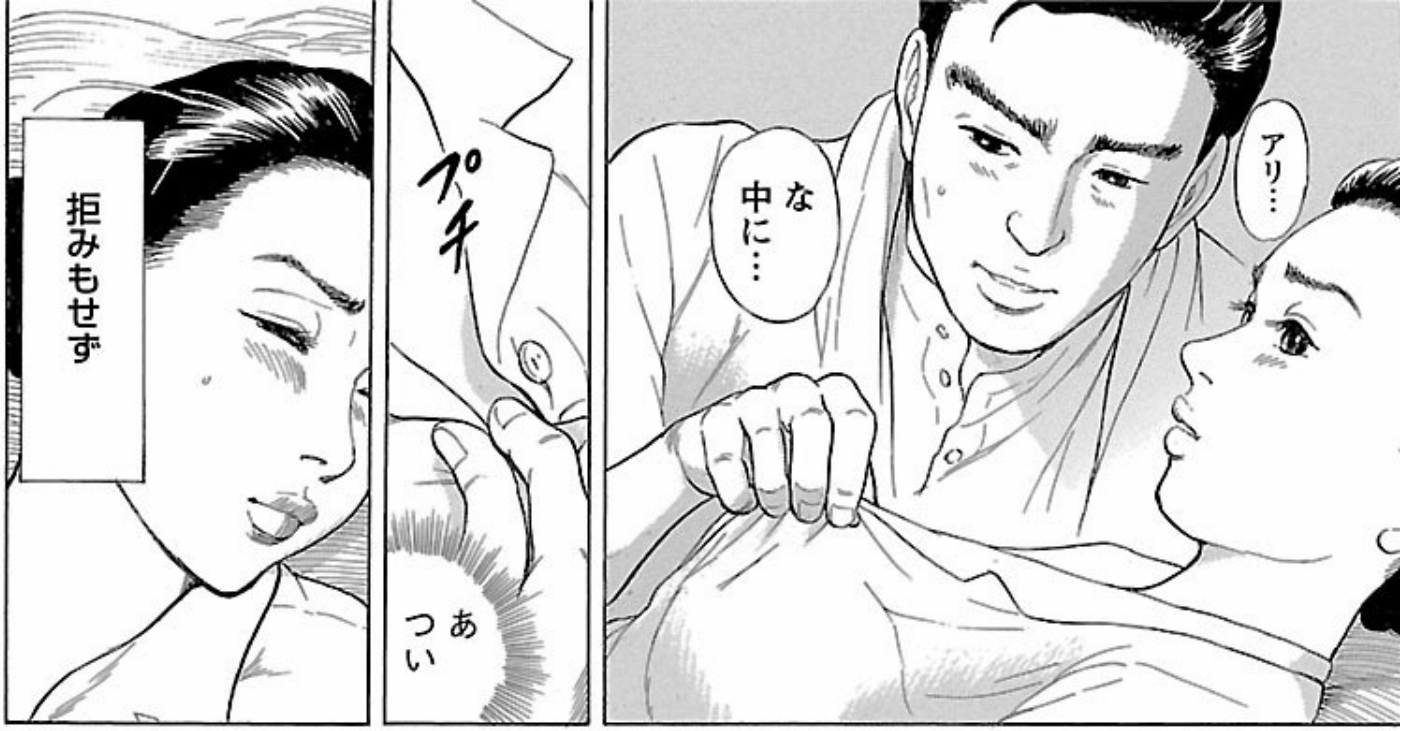
二人きり……!!
はい
あ……
う 上手く しゃべれね ……!!
俺も 映画俳優や 役者みてェに 台本でもありゃ 上手く言えんのに
健児のことなんか 忘れちまいなよ!
裕次郎だぜ

口には出さず
痛？
うん少し
どれ
コン
グイ
ビク
グッグッ

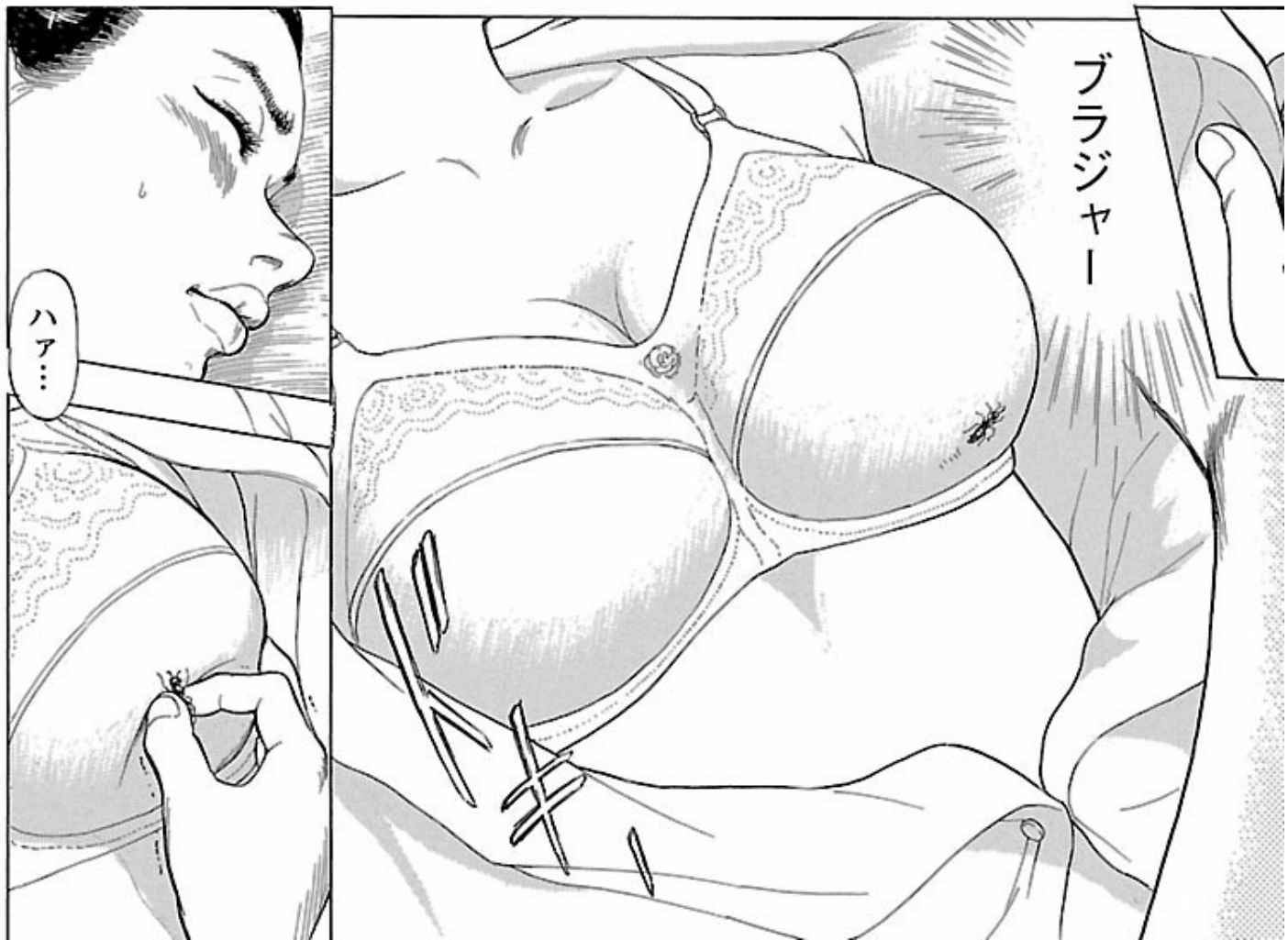
拒みもせず…
グ
あつい…
後悔もせず
慣れない
カマふりで
痛めたかい
困った
お嬢さんだぜ

それにしても華奢な
細い
やわらかい腕
グッ
グッ
キュン
健児のことなんか忘れて俺んとこ来いや
ドキ
ドキ
新婚旅行は東京だぜ
赤い服着て ハイヒール履いて
きっとイカスぜ
SHI
グッ
腕のつけ根……
そこも…？
うん 少し
どれ
グッ
ビク

テテ
ああ これで 腰が楽
ハッ
手のひらに 当たる感触は
オッパイ
よ 横に…
ん…
オッパイの上半分と 手のひらの下半分と
ああ 真津美 さんの オッパイ !!
ハァ
ハァ
ハッ
アリ…
え…


アリ…
な中に…
プチ
あつい
拒みもせず

そっか拒んで畑を追い出されたら働くとこねェか
プチ
ということは…
ハァ…
ハ…


ブラジャー
ハァ…

ピン
ハァ…
ん…
ビク
こっちも…？
グッ
グッ
ああ
両方の
オッパイが
手に当たる
ああ
手がつい…
だんだん
下に…
下に…
いや
検査だぜ
!!
グッ
赤ん坊のために…
いい乳が
出るオッパイか
……!?
検査だぜ!!
ハッ
アリ!!
グッ
ムニ

え…？
アリ
中に…
や…
さりとて抵抗せず
パンティ

モンペの奥に
あ…
ん
いた
さりとてさりとて抵抗せず
ハァ
ハァ…
ピ
だめだ手が止まらね…
ハァ
んん…

いや
検査だぜ

グニ

グニ

んん…

いい
赤ん坊が
産まれる
アソコか
検査だぜ

ああ
何て
カワイイんだ
真津美さんの
ココ…

コンモリ
してて
やわらかくて
手のひらに

ふっくら…

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

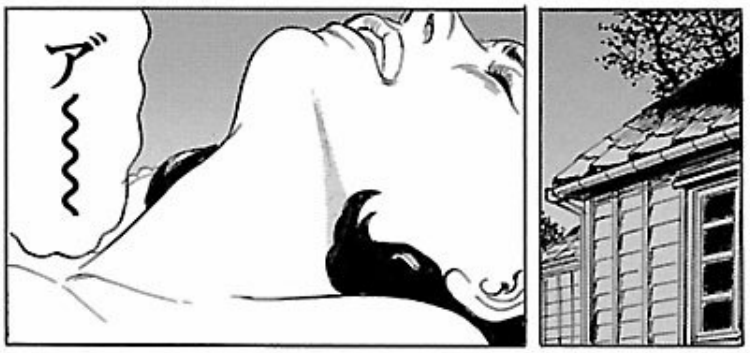
ムニ

ムニ

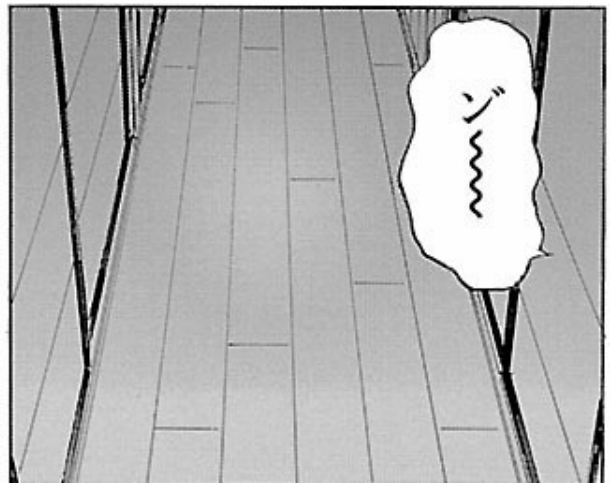
そして
赤ん坊が
産まれたら
……

赤ん坊が吸いやすい乳首かどうか…
ゲィ
や…
ハァ
キ
キレイだ
キレイだよ真津美さんの乳首
ハアッ
真津美さん？

ヒロキん家の畑の仕事だいぶ慣れだ？


ア～～～

どうしたの父ちゃあ？最近 まだ急に…？
いいがら
ほら


ジ～～～

ア～～～
グッ

ゾ〜〜〜
アァ…
ピロキ…さん…
プ。。

や…
いや
ハァ
ハァ
と
止まらねェよ
真津美さん
や…
ハァ
真津美さんの
アソコ…
毛が…ワレメが
……ああ
濡れでる!!
真津美さん
ン~
ン
…
ン…

ン〜

ン

フン…

ハア…

フン…

ン…

カチャ

カチャ

ン…

グッ

アアッ

あったけェ
ア
ア
真津美さんの中あったけェ
グッ
グッ
グッ
ボッ
アッ……
アッ
アッ
アッ
ン
ンン
ボッ
グッ
グッ
気持ちいいのかい真津美さん
アッ
アッ
アッ
アッ
いいのかい
ズブ
ズブ
ズブ
ジャク

ア
ン
キレイだぜ
真津美
さん
アッ
ア
ズグ
ズ
アアッ
健児は
してくれなかった
のかい…
ハァア
ズ
アッ
アッ
ア
もう…

嫁に来いや!!
アアウ
アッ
嫁に来いや!!
嫁に来いや!!

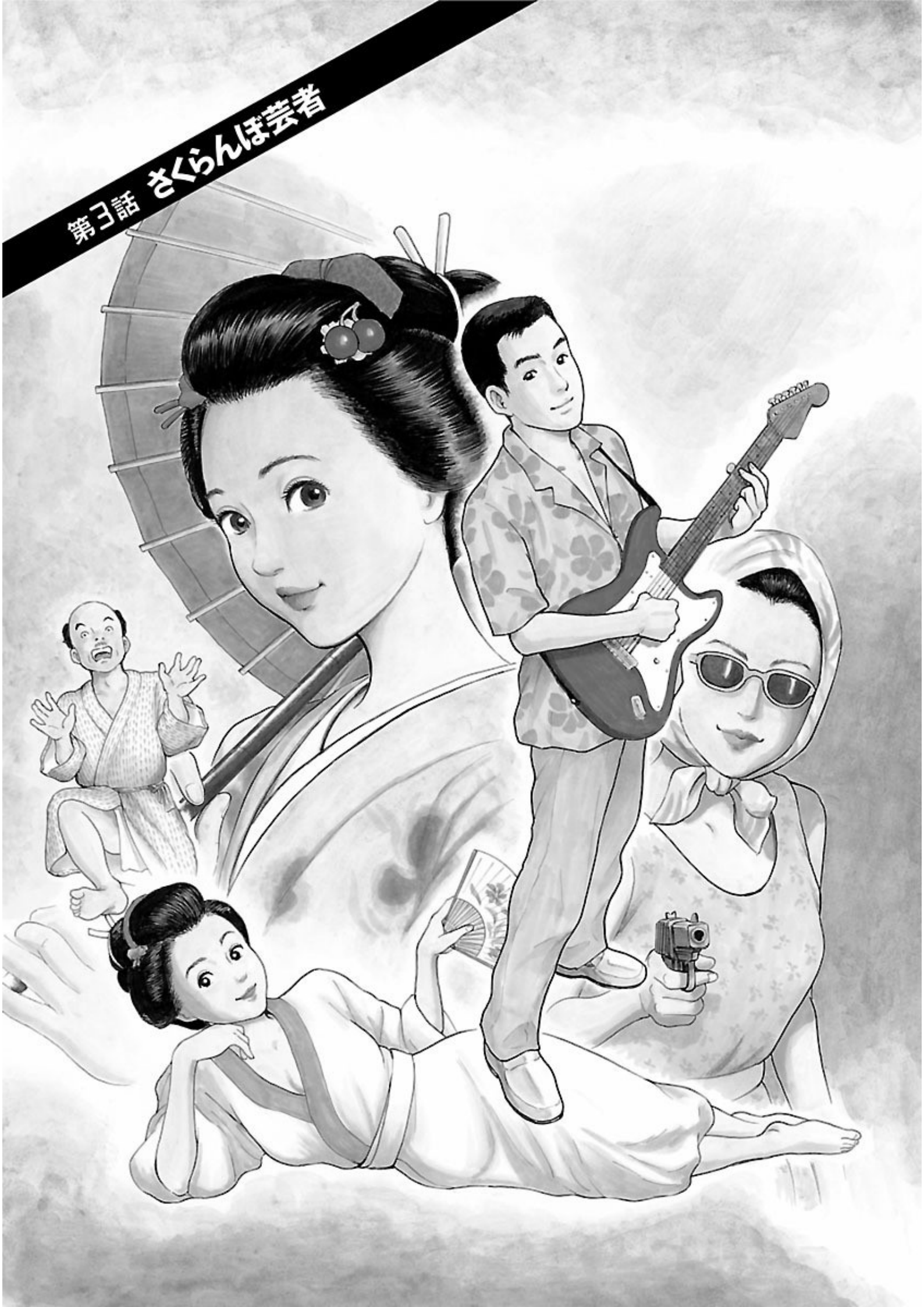
拭かれるのを
拒みもせず
萎えもせず
先ほどの
自分の姿が
恥ずかしくもあり
ただ この先
自分は
どうなるのか
不安げな
目をするばかり
それを
優しく
瞳が
包み込む
嫁に
来いや
二度目
口には出さず

次の日

あら
真津美さん
早いね

あ
雨だ
ポツ
ポツ
ポツ
ザザー
ザザザザ

それから
三ヵ月後には
ごく身内で
祝い事が…
そして
初めての日から
十月十日目には
めでたいことが
起こったという
第2話●END


第3話 さくらんぼ芸者

ポルノ・グラフィティ

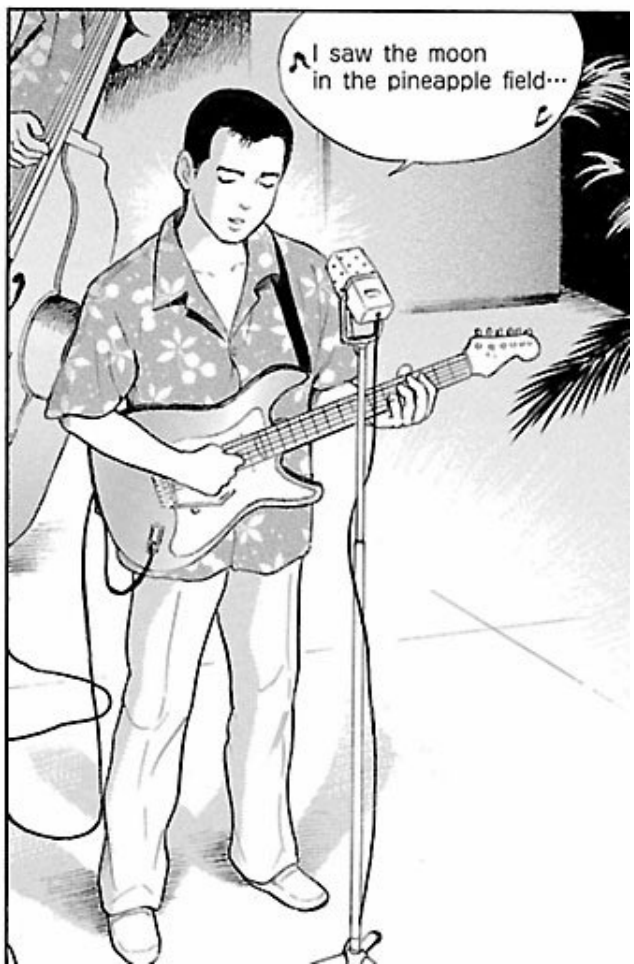
Porno graffiti

高度経済成長の中
大学生になった私は 学生仲間のハワイアンバンドの一員として
全国的にも有名なこの温泉地の大きなホテルで夏休みの間だけアルバイトをしていた
S県A市

あここ
ここ
ここが
ええわー

ほォ〜

ボーイさん
こちら
ビール
人数分



パチパチ
パチパチ

そんな中に
彼女はいた

よーしゃ
終わった
今日は
ノーミステイク
だったぜ

まァ
一ヵ月近くも
やってりゃな…

ところで
どうする？
明日

ああ
そだな ボーリン…

おおっ

WAO

あんたたち上手くなったじゃないの

それを 初日からお出しなさいよ

美人が見てると腕が鳴るってよ

まァからかって

彼女はいないか

グッ

手を挙げろ

いた

アハハ

ねェ あんたたち明日お休みでしょ

うん 東京から歌手が来て特別興業があるから

私もお休みもらったのねェ 海かどっか行かない？

え…

デ デート!?

何か予定あるのん？

いや 別に…

せっかくの夏なのに海一度も行ってないしさ

何？みんなにバレたら気まずいの？

だったらこっそり待ち合わせしよ!!

私も姐さんたちに何か言われんのやだし…

ねそうしよ

彦――明日どうする？
んああー
別に――そこら辺ブラッと
ブラッとか
なボーリング行く奴は？
あそれよか横浜あたりでガールハント…てのは？
あんたギター上手ねェ…
わっ 芸者だ
フフ…
ハワイアンバンドの子でしょあんた歌も聴いたけどいい声してるわ
名前何ていうのん？

…彦…
みんな
彦って呼んでる

彦ちゃんか…フフ
ちゃんは余計だよ

私 由美江（ゆみえ）

本名 由美子（ゆみこ）… フフ

来て早々
会話を
交わし
その後
5、6回

短い
会話を
交わすだけの
その程度の
仲…

次の日

えと…
スマートボール屋の
前…だから…

手を挙げろ

フフ…

来た――

えあれー

髪

日本髪の方がよかった？

いやそれは

あげるプレゼントよ

え～～～

こんなのもらっても…

クニャ

メキ

いくらした？

計40円

安いなー

そーかー

じゃ これにする？
子供じゃ ないし…
いや 結構 もう！
結局 ワッペン 買ってもらったり して
ドキ ドキ
ビフテキ でも 食べる？
まだ 開いてないよ
ん～～ 白玉
あ～～～～～ 自慢したい!!
俺は今 芸者の娘と 白玉食って デートしてる ぞ～～～～
いや 芸者といっても まだ一年生(と言っていた)
まだまだ アルバイト的な 感覚？
そして 汽車で西へ数十分
そこに目当ての 海水浴場があると いう
まだかな
あ 動いた
ガタ ロン

西の方向
なら
知人と会う
こともない

汽車の
中では
お互いのことを
たくさん話した

由美江は年も
学年も 一つ上

可愛らしい
とは思う

ただ
恋愛感情は？
というと…正直
ギモンだった

それは
彼女も同じ
はず

夏も もう終わり

海に行くなり
なんなり お互い
手近な相手が
欲しかったのだ
ろう

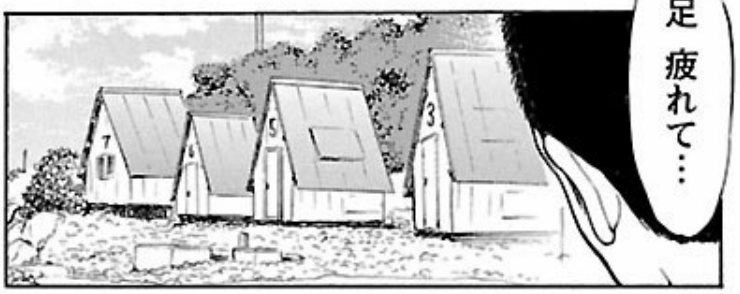
キャ

この辺も
この頃になると
人影もまばらだ

食事も し…
泳がないの？
うん 日焼けしたら怒られるし…
数時間 こう一緒に過ごしていると
別の興味もわいてくる
彦ちゃん キッスしたことある？
えっ
先制!?
ねェぜす
ねェぜす？
あ ねェぜとないですが一緒になっちゃっ…
フフ…
あ…
それは数秒
だ 大丈夫 人影はまばら 誰も見てない…

7

バンガロー借りよっか
え…


足 疲れて…

当時観光地にはこういった簡易宿泊施設が数多くあった
その中の一つ人目につかない一番はじ

料金は彼女が払ってくれた

中は6畳ほどの部屋と

入り口脇に水しか出ないシャワー

彦ちゃんも足洗わないと

うん…

砂ついてるし…

ン…

今度は人目を気にせずたっぷりと

胸に手をやると

もっと揉んでと突き出した

ハァ

ん…

この人が僕の初めての

ハァ…

スカートの中の秘部……

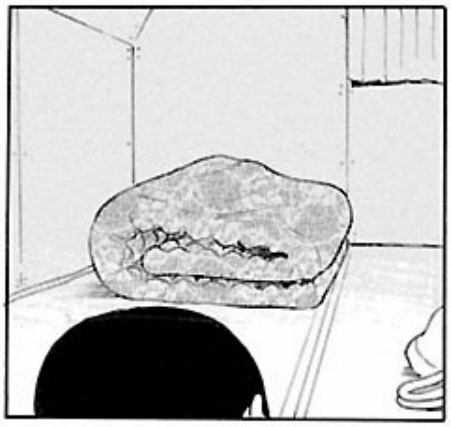
あ…

いや…

軽い抵抗は女のたしなみか…

マットレス…敷こ

マット…



OKということか!!

彦ちゃんも脱いでェ…
あ…
うん
ドギマギしている
私を 言葉で
リードしてくれる
シュミーズ姿なのは
脱がす興奮を
味わわせるためか
ン…
ハァ…
ハァ…

ああ
これが
女の人の
秘部!!
な 中が
クニュッと
してて…
ハァ
ハァ
ン
前戯がどうとか
もう前知識は
ぶっ飛んじゃって
ハァ
ハァ…
も…
もういいのかな
どこだ!?
ン
どこだ!?
ン

入り口が
わからず
さまよっていると
彼女が

二本の指で やさしく中へと
導いてくれた

ここか…

あ…

ン

先端が
やさしく
くるまれた
……
唇のような
ものでしかし
まだ
4センチ
ほど

誰に教えられた
わけでもなく
腰を使ってしまう
奥へ 奥へ

ン

ン

次第に
彼女のモノも
やわらかくなり

徐々に
中へ
5割
7割…

プツッと
肉が割れる
感じがして
ほぼ100%中へ
入った

抽送を続ける
と

彼女の中は
ますます
やわらかくなり
さらに奥へ

奥へ…

ン

ン

思う存分
腰を使う

どのくらい
たったろうか

ア

ン

次第に
彼女に
変化が
訪れた

ンン…

ううっ

ァアッ…

ビクッ

ア…

二人とも絶頂に達したんだと思う

ハァ

ハァ

えっ ホント？ 初めてだったの？

うん

何故 喜ぶ？

彼女は少し出血が見られたが私が二人目という

よくわからないうちに終わっちゃったから

処女膜残ってたのかも

そんな会話の中抱き合ってると再び欲情してきた

もう一度する？
うん…
今度は彼女が上になるという
あれ…
えと どうやって…？
ん…
どこ？
何？
そのカーテンの隙間からは傾きかけた日の光を受けた水面が…
キラキラと……

二度目
そして絶頂

次の日
今日は来ないのかな
ハァ…
ア…
ン～
ハァ…

初めてか？
ん～ん 三人目
何や 三番目か
お初じゃ ないんか
せっかく ここまで こぎつけたのに
すいません…

けど 二人っきゃ経験ねェんなら あれだろ 気ィやったことはまだねェんだろ

俺がイカしてやるからな

ン…

そして夏休みが終わった

彼女とは あの日以来会うことはなかった

どーもスミマセンでした

なくに 冬休みにまたアルバイトで…

でなかったらまた 来年の夏…

いつでも会える
と楽観的な
考えは
しない方がいい

二度と
このホテルに
来ることはなかった

バンドも
メンバーが変わったり
アルバイト先も
ビヤホールやデパートの屋上

私自身も
バンドを移ったり
ジャズから
カントリー…etc

そして
長い長い
時間が
過ぎていった

何年も
何十年も
……

再び
この土地を
訪れた時
町は様変わり
面影は微かに
そこかしこに
あったが

ホテルはもう
なくなって
いた

何だ
これ？

ん〜〜〜？
それは
ね…

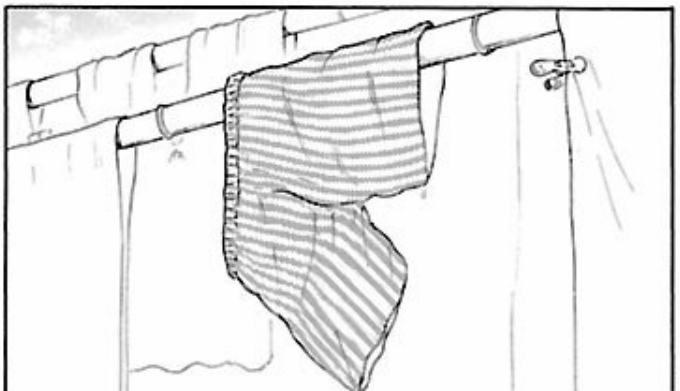
手を挙げろ
ハハハ…

あ——
ピストル！
フフ…
ご名答

いやいや
まさか…
まさかな――
いや…
まさかな――
第3話●END

第4話 未亡人下宿「手記」より

戦後間もなくの
ことでした



ハァ…

ハァ…

先の戦争で
夫を亡くし

七歳になる娘と
二人暮らし

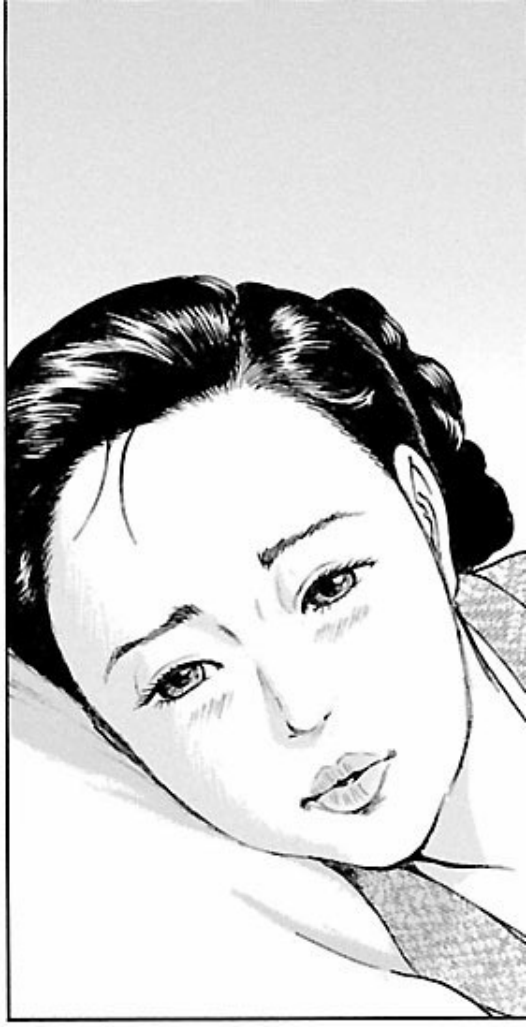
女の
手内職や
小さな
仕事では
生活は
ままならず

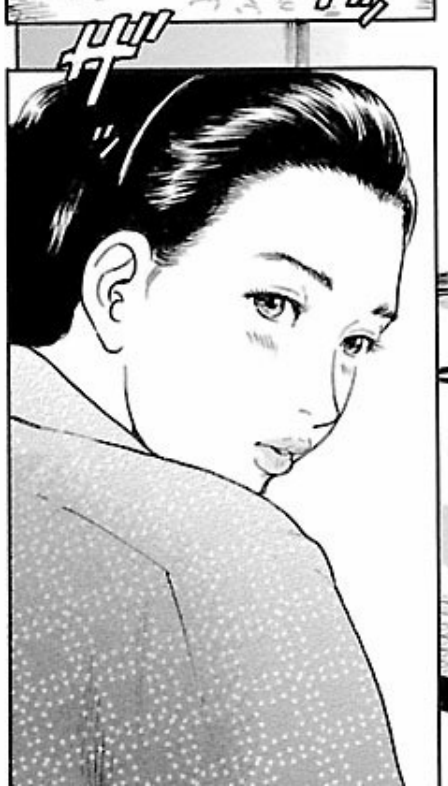
幸い
家は
ありましたので

二階を
下宿人に
貸しておりました

ピクッ
ピクッ

ただ その下宿人が
独り身を火照(ほて)らせる一つの
要因ともなっていたのです





下宿人は
滝田さんと申しまして
肩幅の広い
カラカラ

あ
奥さん
こんな遅くなって
すいません
お帰りなさい
新聞社にお勤めで
アメリカさん相手の
通訳や翻訳を
なさっている方でした

はいこれ
チョコレートと
ミルク

まァ
ミッちゃんが
喜びますわ

たまに 酔って帰る
滝田さんでしたが
この日は様子が
違ってました

奥さん…
前から話してた
名古屋への転勤話
どうやら本決まりに
なりそうです

まァ
名古屋に…

前から聞いておりましたが

切ないモノがチクリと
胸を刺しました

奥さんには
洗濯やら掃除やら
もう…お世話に
なって…

いえいえ
そんなもう
……

去り難いの
ですが…

おっ
ワインですか

はい
眠れず…

お飲みに
なります？
一緒に

再婚は
なさらないん
ですか？

ん まァ
年ですし

いや
いや

努めて明るく
場をなごませる
滝田さんでした

こんな美人が
もったいない
な――

これも滝田さんからの
もらいもの…
勧めない訳には…

ま
美人なんて

滝田さん
ホントお上手

私は滝田さんとの
こんな楽しい
会話が
大好きでした

滝田さんこそ
どうなんです？
メアリーさんとか
おっしゃってた方？

おお
メアリー女史！

いやいや
あんな堅物
恋愛対象にゃ
なりませんよ…

そして
お酒が進むにつれ
いつしか
男と女の話へ…

婚前交渉は
おありだったん
ですか？

僕の
好きな
女性の
タイプは…

ま
よしま
しょう

初めて会った
その日が
結婚式の日
結婚生活も
二週間ですわ
二週間!?

二週間で
ミッちゃんを…
一瞬
夫との
夜の行為が
頭をよぎりました

パキ
いや 奥さん
変な話して
申し訳ない
はい
チョコレート
え
そんな時
無邪気におどけて
チョコレートを口に
押し込んできたのです
ん…

ん〜
口にグイと
押し入れられた時
ふと 私の秘められた所に
入ってきた男のモノを
思い出しました
ワインと
チョコレート
よくお合いでしょう
はい
も一口
アーン
ん…
ん…

あ…
また

そして
二個 三個と
続くうち…

チョコレートが
口の中で
溶けるように

私の下半身も
トロトロと
溶け出して
いったのです

あ 奥さん… 口の横に
チョコが

え…

あ だめ
指が汚れる

奥さん
ギュッ
いやっ

奥さん
ズボッ
いやっ
やめ…
反射的に
よけて
しまいました

いや…
奥さん
心臓が爆発するのでは…
そう思うくらい激しい
驚きでした
やめて…
下さ…
やめ…
口を固く閉じ
必死に抵抗を
続けました

だって滝田さんの目的はクチビルだけではないはず

そう思うと…そう思うと…下半身は

ああ…

とっさにミッちゃんが起きちゃいます

ハァ

ミッちゃん……

ど どこに？

ギッ ギッ

二階…

あっ

何

ふいに私を抱き上げ

ご自分の部屋に
私を連れ込み なおも激しく
私を求めてまいります
ハァ…
いや…
や…

正直 怖くも
ありました

ただ抵抗するにも
力があまり
入りません

酔いのせいかも…

チョコレート…

そう…先ほどより
下半身は
うっとりと……

私の性欲も
また…

ああ…

だけど受け入れたら過ちを犯しそうで

ただ
身を固くして
諦めを
待つばかり

だけど…

ハァ…

滝田さんの顔を見ると切なくなり
この方とももうすぐお別れが……
そう思うと切なさと何やら熱いものが胸の奥でボウと燃え上がり
思わず首に手を回していたのです
ハァ…
ハァ…

ズリ
アアッ
熱い固まりが
秘部にあてがわれた
と間もなく…
ズブリと
私の中へ
入ってきたので
ございます
もう トロ〜でしたもの
滝田さん
あまりのスムーズさに
一瞬とまどいを
見せるも…
ご自分のこわばりが
私の秘壷にピタリ
おさまっているのを
確認すると

激しく腰をふってきたのです
アーッ
アアッ
アア
アアッ
固く熱いものが私の壷の中を前後に…
子宮底にズンくと当たっては脳天にまで響きそうです

快感でした
待ち望んでいた
男のモノが
壷を
激しくえぐる
心地良さ
思わず
声が…
あえぐ声が
大きくなり
恥ずかしく
滝田さんの
肩に口を
押し当て
消そうとするも
ついきつく
抱きしめ
快感を…
滝田さんの
モノをもっと…もっと
深く受け入れようと
致します

そんな私の姿に滝田さんも興奮したのか

激しい腰の動きもとどまることを知らず

そして数分の後

ウ…

ア…

ウ…

ア…

低いうめきとともに滝田さんのモノが一層こわばりさらに固く…大きく…

アアッ

アア

来る

ア…

ア…

ウゥ…
アァ…

鯉…
滝田さんが
言うには
この時 私のモノが
鯉の口のように
五、六度収縮したと
言います
果てました…

己の指ではなく男のモノで
良枝さん
許して下さいね
この時滝田さんは初めて名前で呼んで下さいました
……
もう腰が抜けるほど…

その夜は朝方近くまで
お互いを求め合いました
やや子ができたら責に…
いやできるといいな
結婚しましょう良枝さん
まるで手ぬぐいが絡み合うように…
激しく…幾度も…
水を吸った綿のようになるまで
そして…
え

あんな
恥ずかしい
つながり方
まで…

アウッ

アー——

お尻の穴まで
見られる
恥ずかしさと
快感が
入り交じり
……

あ…

また…

ア

ン

ン…

奥さんの
この腰つきが
好きだった

着物の時も

スカートの時も

ズボン姿の時も…

ああ…
この腰が
今 僕の
腹の下に…

ン〜〜〜

ン〜〜〜…

数日後

滝田さんは
名古屋に
去って
いきました

酔った上での言葉ではないんです

二、三年たったら戻ってきます待って居て下さいネ

やあ
奥さん
こちらに
居ましたか

あら
不動産屋さんの
……

あ
こちら
下宿探してる
学生さん
なんだがね

え

どうだろ
部屋見せて
やっちゃもらえ
ないかね？

あらあら

まァ

私とて今はまだ
独身女性

色々な男の方との
関係を…

いえいえ そんな気は
サラサラございませんの

ただ
若い殿方と
接する時
何故か
妖しい腰つきに
なってしまいます
ワ…
こちらですの
キミ
キキ
ミ
かしこ…
第4話●END

第5話 ソファーの海（前編）

¥ CASHIER

ガヤ

ガヤ

ガヤ

いらっしゃいませ
あっ
あ ゴメンなさい
割り込んじゃいました？

ゴメンなさい…
ピッ
ピッ
ピッ
小計
¥8.230
8，230円になります

んー 出ちゃったか 8千と2百…
あれ…あと10円…が…
あ ゴメンなさい あと10円が…その… 何か返品…
ええ？
ゴソ
え？
どーぞ
あ…
ゴメンなさい 今度会ったら お返ししますから
8，230円 ちょうど いただきます

あの…どうしました？

あ さっきの…

さっきは どうも…

いえいえ

あの…タイヤの空気が 抜けちゃってて…

あ パンク…？

乗ってっても… 平気かな？

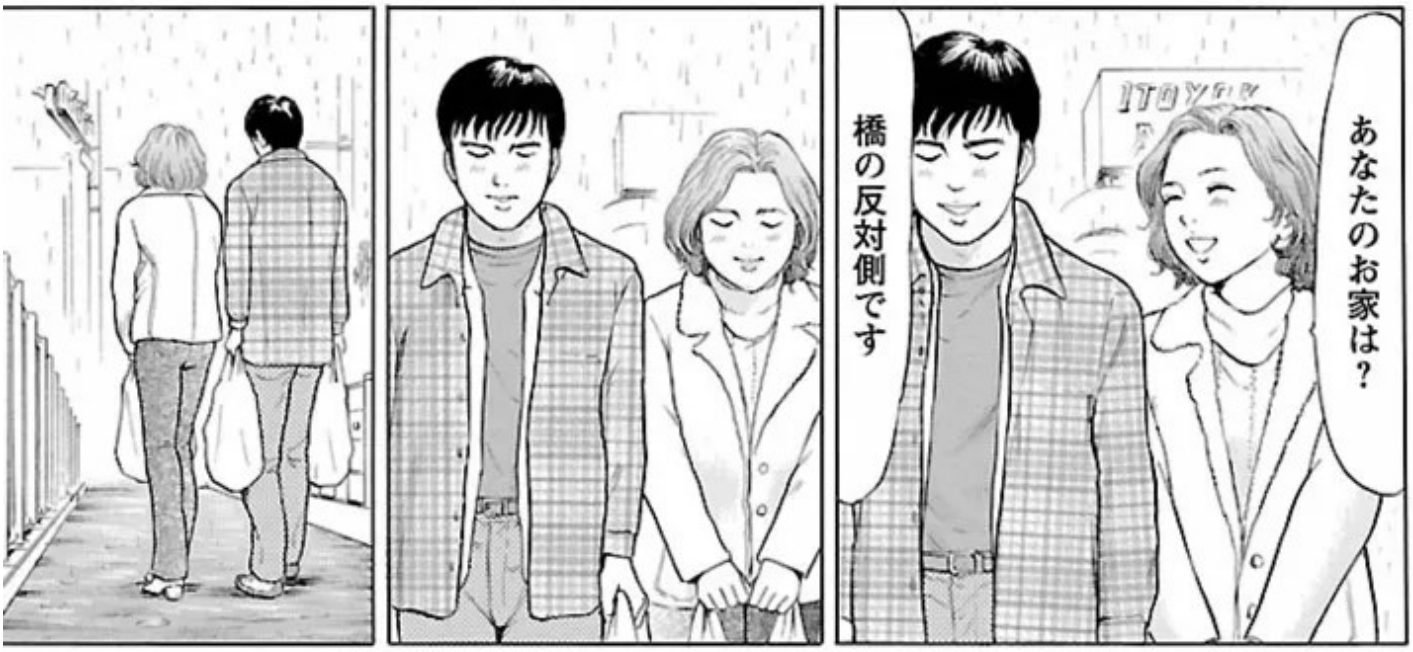
ああ 危ない危ない この天気だし… 押してっても…

もう… こんな時に私ってば こんなに買っちゃって

あの よかったら 僕が… その…家まで…

え…？

ゴメンなさい…
重い方持たせて…
重いでしょう
いえ…
全然
橋の向こう
なんですね
はい…



こっちです

狭いでしょうここら辺

こっちです

こっち

右へ曲がったり
左へ曲がったり

何だかわざと
遠回り
してる
ような…

フッ
家の場所を
覚えさせないためか…

ズッ

おわっ

ズッ

だ 大丈夫？
あ 大丈夫
てて… ここら辺 日陰で 下が 凍ってて…
はは…
すいません 卵 割れちゃったみたいで
んん～ 気にしないで
さっ

ここです
さァ 入って

近所の人に 見られて ないか…
確認した…

パタン

じゃ 僕
これで…
あ――
ダメダメダメ
そんな濡れた
まんまじゃ…

うちの…乾燥機付きだから
乾かしてって…
それに
ズボンも洗わないと…

気にしないで
この家
当分
私一人きりだし

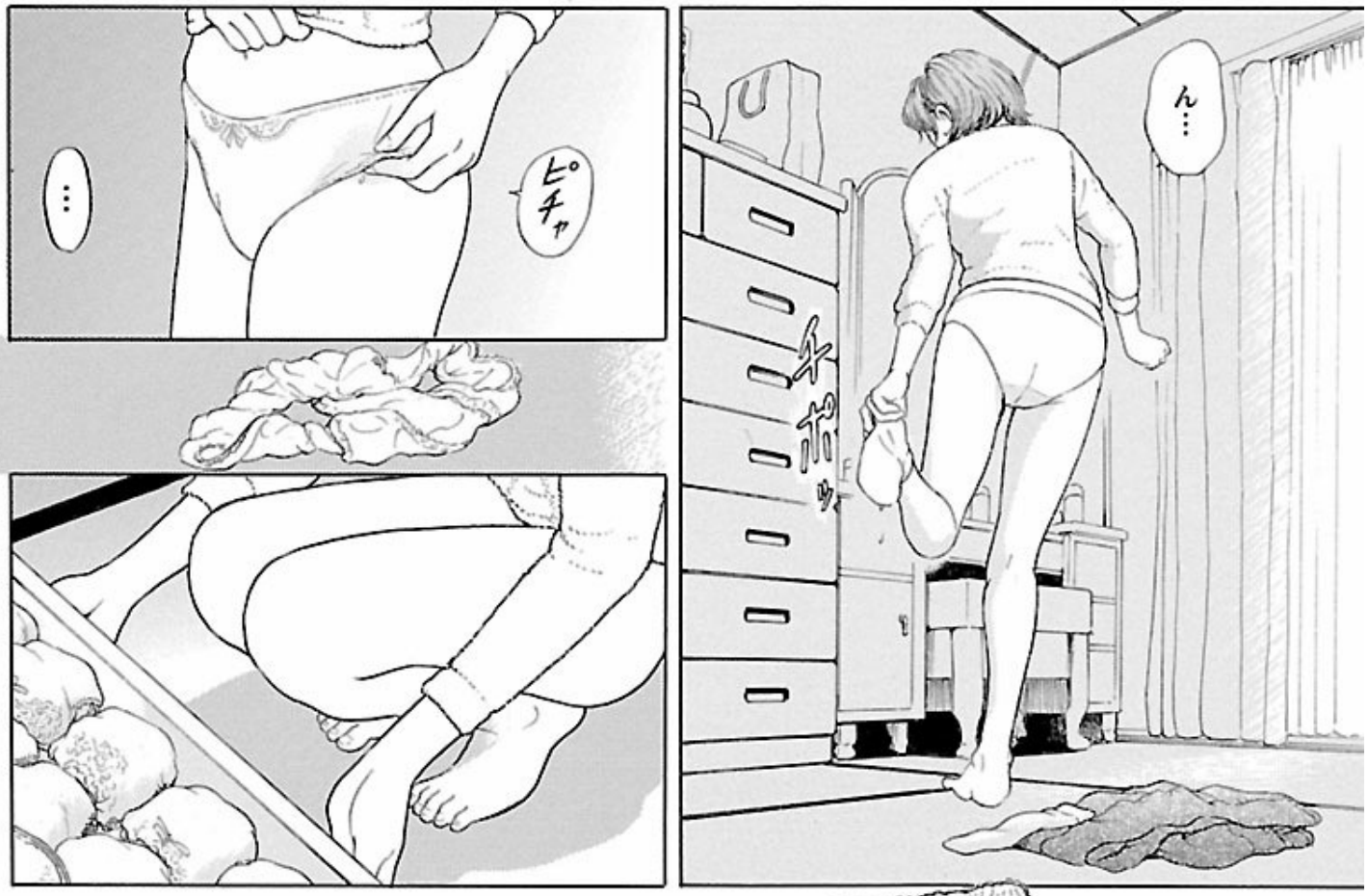
はい これ
バスローブ
私のだから
小さいけど

あ 濡れたの
そこに
放り込んじゃって

まァ…Tシャツも
濡れちゃって
それもね

ピッ
寒いでしょう
すぐ温まりますからね

ゴメンなさい
私も失礼して着替えを…
フフ…もうビチョビチョ


ん…
…
ピチャ

ブオオオオ
パタン…
ピチャ
カ・チャ
あら…
あ
あの…
どうしま…
様子が…

ドン
あっ
何!?

ズッ

やっ

え…
さ
寒い…
カチ
カチ
カチ
カチ
ギュ

空気が
冷たい…
シュー…
ハッ
冷房!!
冷房
あ
ピッ
ピッ
ピッ
暖房
やだ
ゴ…
ゴメン
なさい…
カチ
な…何で…? いつから…
あ 今朝だ 出かける前
リモコン拭いた時
スイッチが
切り替わって…

それを知らずに
この人
うたた寝
しちゃって…

この冷気の中…
ガウン一枚で…

カカ
カカ
ガチ
ガチ

演技ではない

ゴメンな
さい…

この肩…体
本当に
冷たい

そばに
人が
来たら

暖を
取るため
思わず
抱きしめる

それは
自然な行動…

これは私の責任!!

こうなったのも
自分の責任!!

異様な光景では
あるが
自然な行動
私にできるのは

この人の体を
温めること
体温が回復するまで
ジッとしてさえすれば

冷たい!!
ん…
氷のような手…
う…
そうね 衣服の中の方が温かいものね…

あ
や…
ダメ…
ん
や…
指が…
指…

幼子の手足を温めるため布団の中で母親が太ももに挟んで温めて寝る

そんな漫画を読んだことがあるような…

かじかんだ指

冷たい…

あ でも ダメ…

太ももだけならあ ダメ…やっぱり…

う… 動かさないで…

軽く抵抗する人妻だったが…

指は温かみを求めて上へ…

さらに温かみを求め

かすかにうごめく…

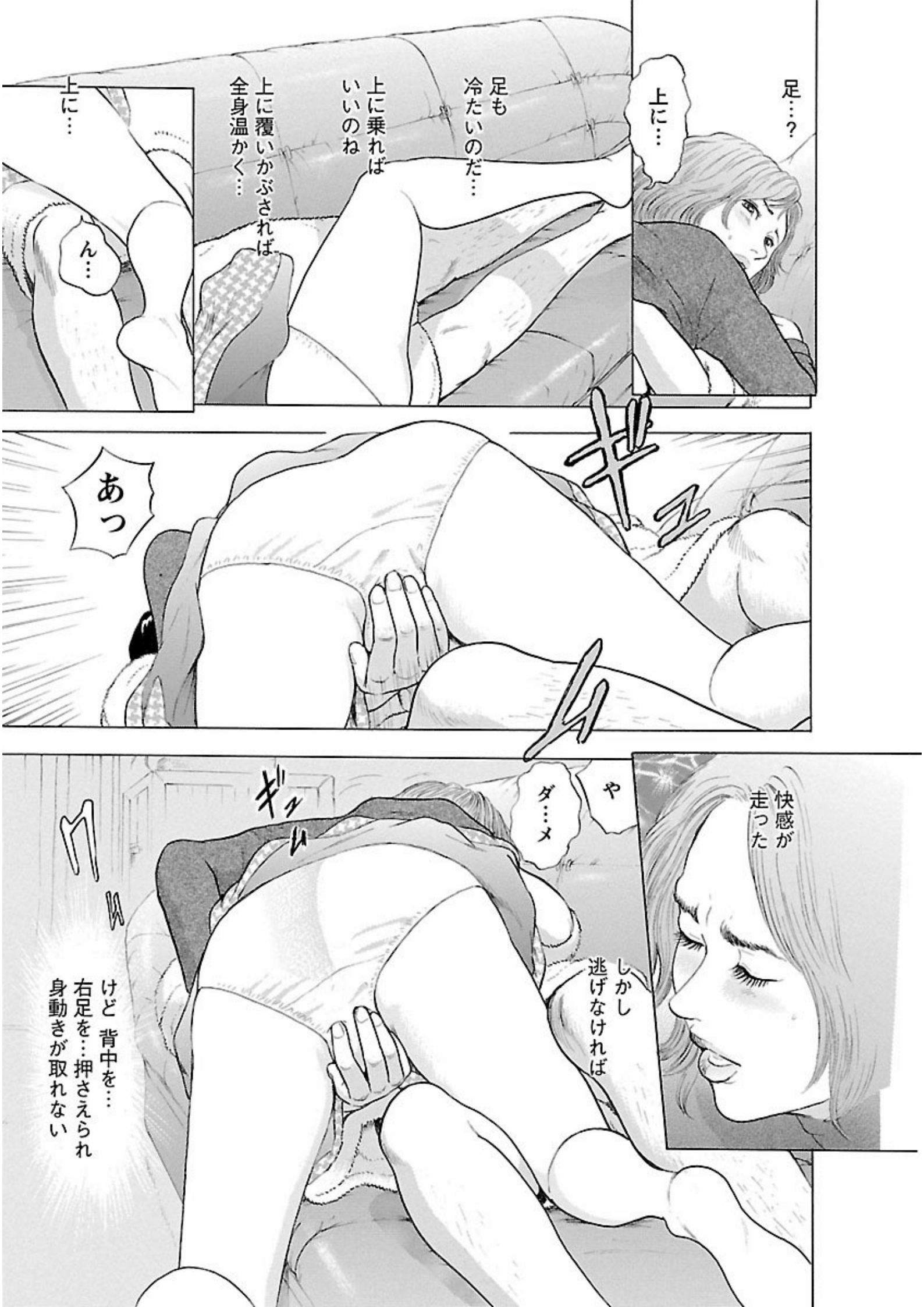
冷たい指を擦り合わせるように…

久しぶりの男の指だった

それも夫以外の

男の指…

足…


足…？
上に…
足も冷たいのだ…
上に乗ればいいのね
上に覆いかぶされば全身温かく…
上に…
ん…
ギュ
あっ
快感が走った
や
ダ…メ
しかし逃げなければ
ギュ
けど 背中を…右足を…押さえられ身動きが取れない

あ…
ん…
上に…
え…
ハァ

そうか…
下半身を上に
持ち上げるため
下から力を
ハァ…
決して
変な気
ではなく
ン…
それは
自然な行動
暖を取るための…

しかし その手は離れず
ゆっくり前後に
擦れる
ン…
ンン…
人妻の抵抗する力が
弱まっていった…

しかし
その手が
スッと
離れた

え
…？

ズッ

あ

ズズッ

脇に挟んで
拒んだが
時すでに遅く
胸はあらわに
なった

やァ

ギュッ

アッ

セーター冷たくて…

替えたばかりのセーターはまだ冷たい

そうか人肌同士の方が暖が取れるというのか

裸の胸はガウンの中へ…

離れなければ胸を見られることもない

だけど…

ピタリ重なった裸の胸

ドクン

どちらともいえない鼓動が強く波打つ

ピチ

ギュ

巻きスカートが…そして右手は温もりを求め下着の中へ

手を押さえつけたがその手は下着と尻の間へ…

あ…ダメ…

しかし人の体の中で
尻は一番体温の低い所

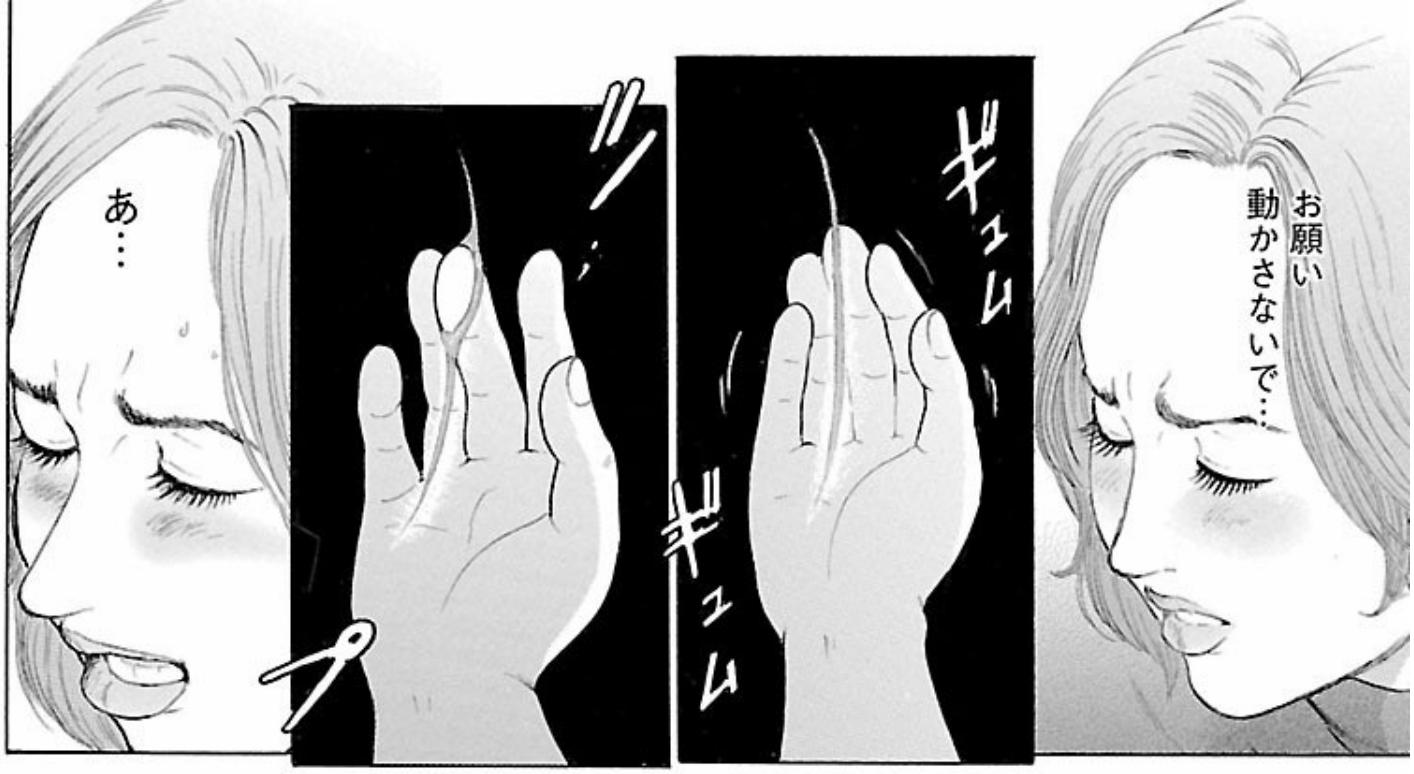
冷たい
手は
暖を求めて
徐々に
前へ前へと
回り込む…

ンン…

キュッ

そしてついに
その手が 直に
人妻の
・・
それに
触れた

思わず
股間を窄(すぼ)め
抵抗する


お願い
動かさないで…
ギュム
ギュム
あ…

ハァ…
アァ…ァ
人妻の
あきらめともため息とも
つかない声が
室内に
漏れた…
第5話●END

ン…
チュク
ンン…
ハ…
ムチュ
プ
プ
ン～
ン…
身動きできなかった
上半身は手で
片方の脚は両脚で
ガッチリ
押さえられて
いる
腰を浮かせば
さらに手に自由を
与えるだけだ

第6話 ソファーの海（後編）
ア…
や…

ゲッ

や…

今度は
こっちの手…!?

ア…

そうか…
ゴムがキツくて
手首が
痛いのか

ア…

このキツ目の
下着を
チョイスした
のは自分だ

ズ

え…

位置を逆に
……
上から
覆いかぶさって
……

そうか
その方が
温まると
いうのか…

ク
ッ
アッ…
ヤッ
あえぎ声を慌てて拒む声で繕ったが
青年は冷たい頬を首筋へ…
顔も暖を取りたいのか…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
キュッ
冷たい唇…
ハァ…
体温はまだ戻らないのか
しかし息は温かかった
ア…

意識を首筋に集中していると手は下着へ…性器へ…
……
これを2、3度繰り返したあと
ついに下半身はあらわになった
そして
熱い 堅いモノがとば口に触れた時
理性が拒んだ
ヤッ
アッ
ダ…
ダメ…

アーッ
アッ
ウ…
ギュイ
ギュ
ズブ
ズブ
ズブ
アッ
アッ
アッ

奥さん!!
頭の中が白く
なりそうな中
青年が
つぶやいたような
気がした

ジンとしたものが
電流のように
体中を走り抜ける

…ッ

ズボッ

ン…

…ン

…ャ

かき回す
青年のモノを
体の奥で
受け入れ
人妻は
声にならない
喘ぎを
上げていた

久しぶりの男のモノだった

熱くたぎる男のモノ…

ハァ

アァ

ハァ…

ア…

ア…

ア…

ア…

アァ

夫は長期の単身赴任中

もう1年と2ヵ月

夫婦生活もそれと同じくらいない

どこか他の女の影が見える夫とは…

いいよ 別に来なくて

いや…

4ヵ月ほど前にあったか

訪ねていった
赴任先の
社員寮となってる
アパートで

薄い壁を
気にしつつ
交わった

声を殺しての
落ち着かない中

夫を迎え入れ

音を
たてないように
腰を沈め
果てた夫

フウ…

飽きた
この女の
体

夫の心の声が
聞こえた気がした

だけど
この青年は
違う!!

私を求めて
いる!!

息を荒げて…
アッ
ハァ…
こんなにも激しく腰を使って…
欲望のため…？かまわない…
私を… 求めて…
アッ
アッ
奥さん…
ハァ
ハァ
ア…
キレイだ

チュプ
キュ…
ン…
ン…
ア…
ア…
キレイだ
奥さん

10分…
15分…
ひどい風邪をひくかもしれない
ア…
ア…
高熱が出るかもしれない
アッ
あの…どうしま…
あっ
抱きしめたかった
さ…寒い…
え…
抱きしめる口実が欲しかった

だけど…

体が止まらなかった

あ…ダメ…

体が止まらず

奥さんの奥深くまで…

アアッ

ア

アア…

アアッ

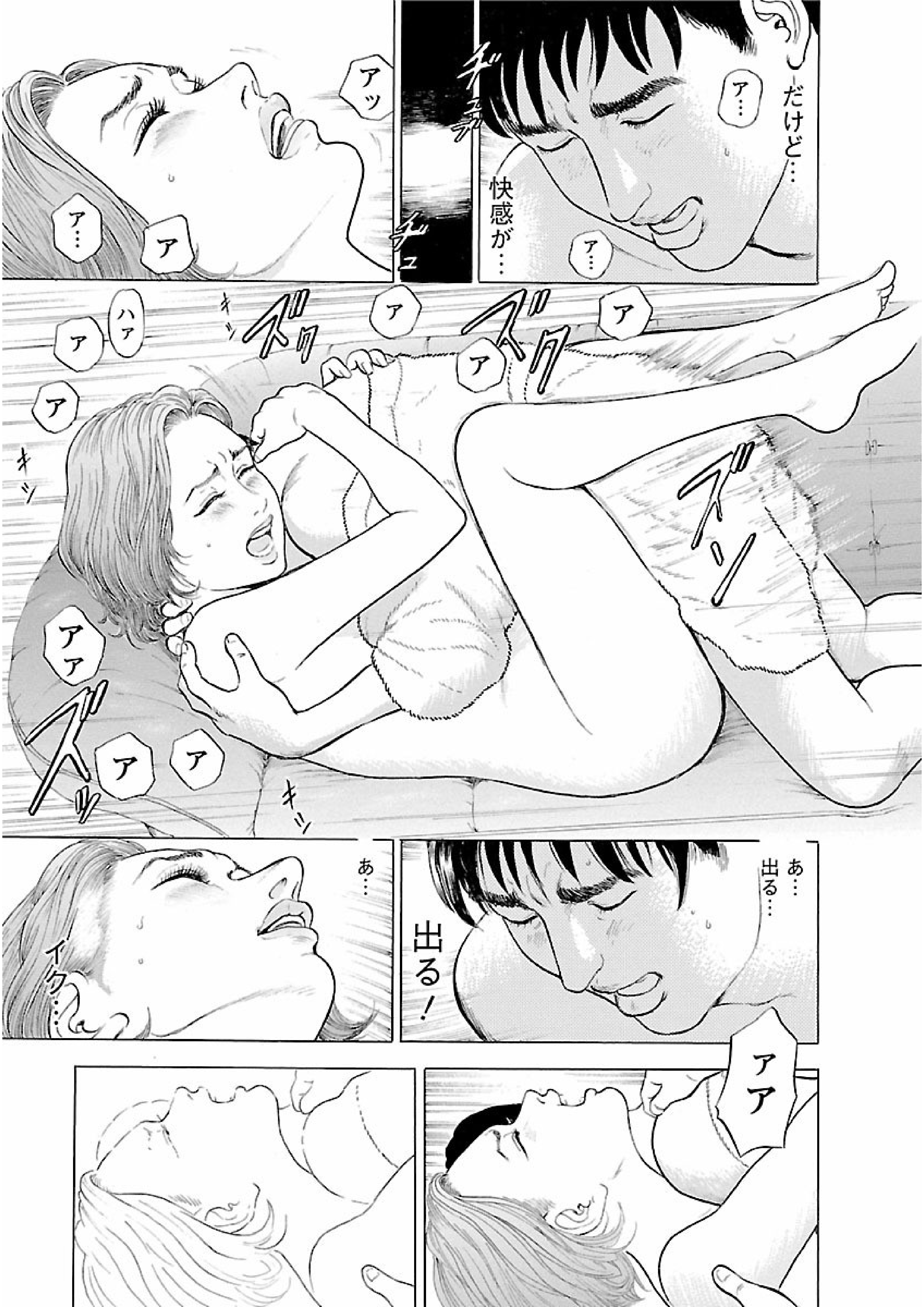
う…

う…

ハァ

アッ…ン

ああ
時間よ
止まって欲しい
ズッ
ズッ
この快感の
まま…ずっと
ア…
ン
ずっとこうして
奥さんと…
ン
ン
ン〜〜〜
ン…
チュク
チュ
キュ
キュウ
ハァ…
ンッ
ジュク
ジュ
アッ
アアッ



だけど…
快感が…
ア…
ア…
ヂュヂュ
ヂュ
アッ
ア…
ア
ア
ズク
ア
ズク
ア
ハァ
ア
ア
キシ
ズン
キシ
アア
アア
ズッ
キシ
あ…
出る…
出る!
あ…
イク…
アア

アーッ
アア…
ア…
ハア…
ア…
ハア…
ドクン
ドクン
ハア…
余韻の抽送
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
余韻の収縮…

すいません奥さん…

いいのよ……

いいの…

すいません…その…中に…出しちゃって…

いいの大丈夫よ

確信はあった…

後始末の間中彼はずっと

申し訳なさそうな恐縮した面持ちでいた

体をこわばらせうつむいたまま…

その表情とは打って変わって
下半身はボッキしたまま
そのアンバランスさが
妙におかしかった
無理もない その若さだ
裸の女性が
目の前にいる
ズ…
え…
ン…
クル…
あ…
ズ…
あ…
ハァ…

この青年は罪の意識を感じている

心の傷になるかもしれない

救ってやらねば…

強引にされたのではない

和姦なのだ

ン

ン

ンン…

ン…

ン…

ン

そう和姦

私からも望んでしたこと

ン

この青年の顔は知っていた

あ
彼だわ

あ

あ
ゴメンなさい
割り込んじゃいました？

ン…

ン

あ

10円がない
10円が

ウソではない

100

ハァ

ア…

彼とコンタクトを取りたかった…

シー

早く抜けて…
早く

ジャャャ…

彼が来る前に…

この青年とコンタクトを…

ハァ…

ハァ…

ア…

ア…

チャク

チャク

チャク

お話がしたかっただけかも…

遠回り

もっと濡れて

もっと……

ア…

ン…

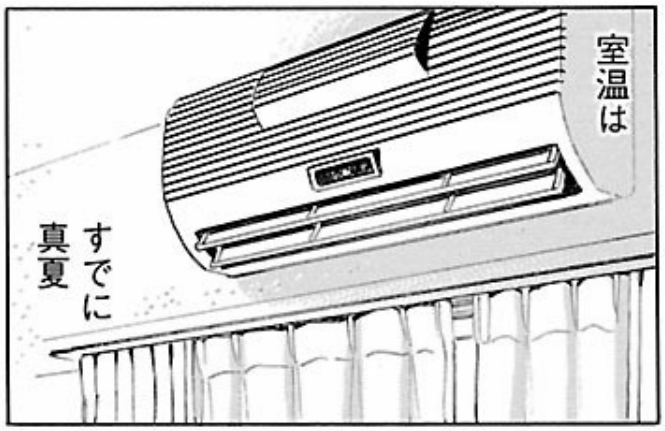
アッ
アア…ッ
アッ
あ
好きな
カタチ
奥さん
あなたを
見てました
3ヵ月前
ITOYOKEDO
ショッピングセンター
アレオ
AreO
あ
100
ゴクッ
フッ…

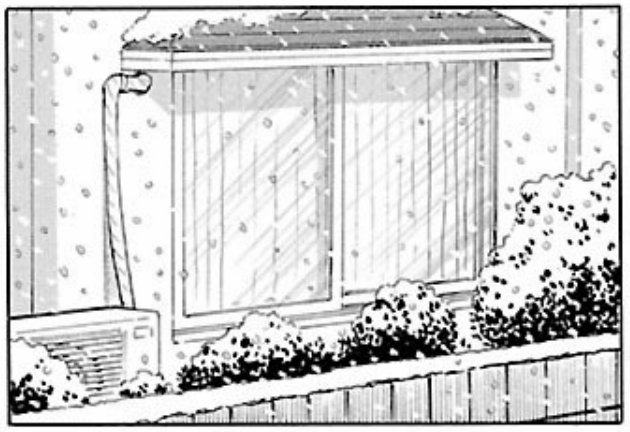
はい
落ちましたよ
100円
キレイな人だ
キレイな指
普通の女の人と会話したのも数ヵ月ぶり
アッ
ア…
アァ
以来 あのショッピングセンターであなたを見かけるたび
ずっと あなたを見てました
あなたは知らなかったでしょうけど…

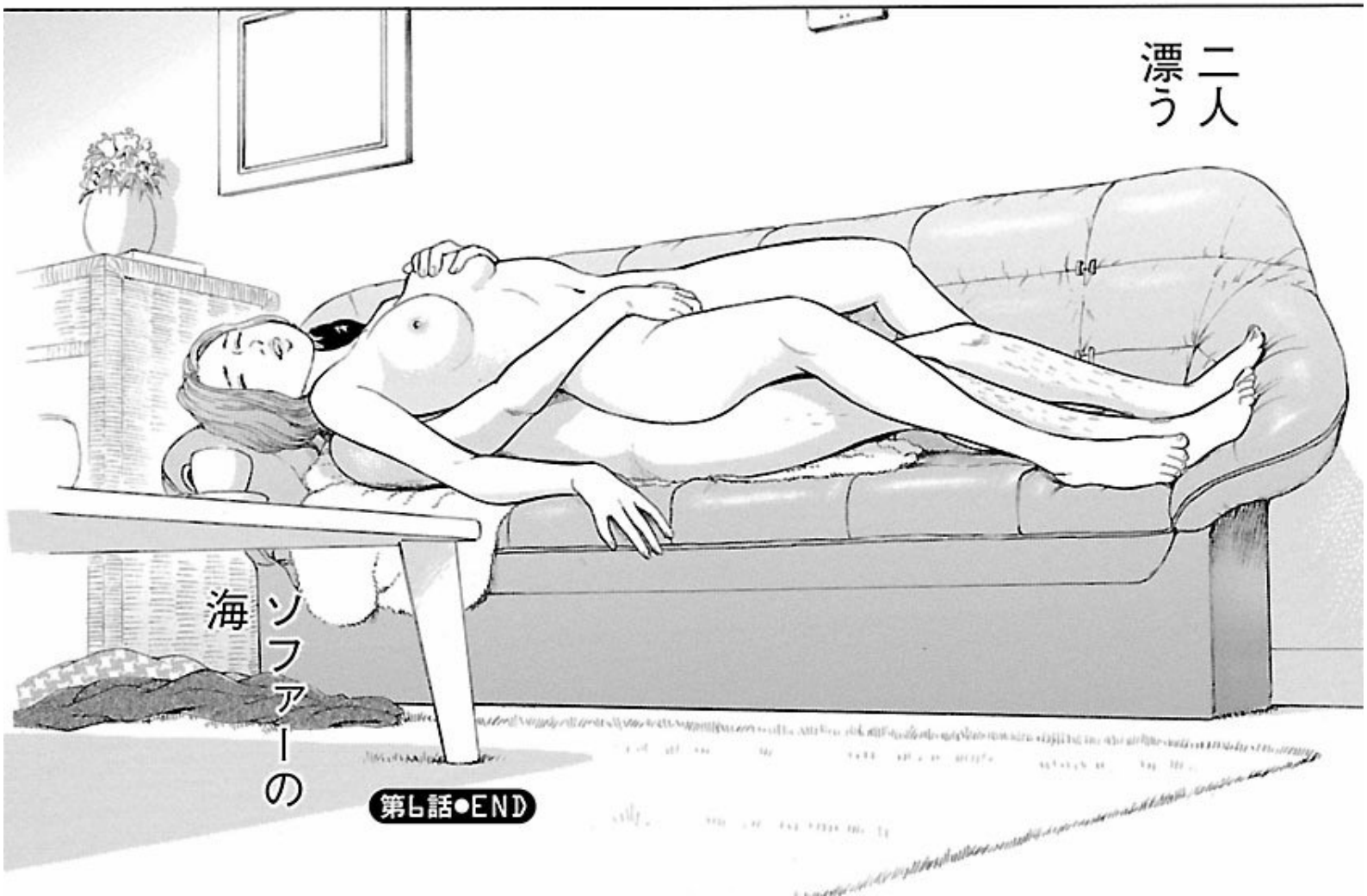
知ってたわ
ウッ
ン…
あなたの視線
いつも感じていた
アァッ
ア
アァ…

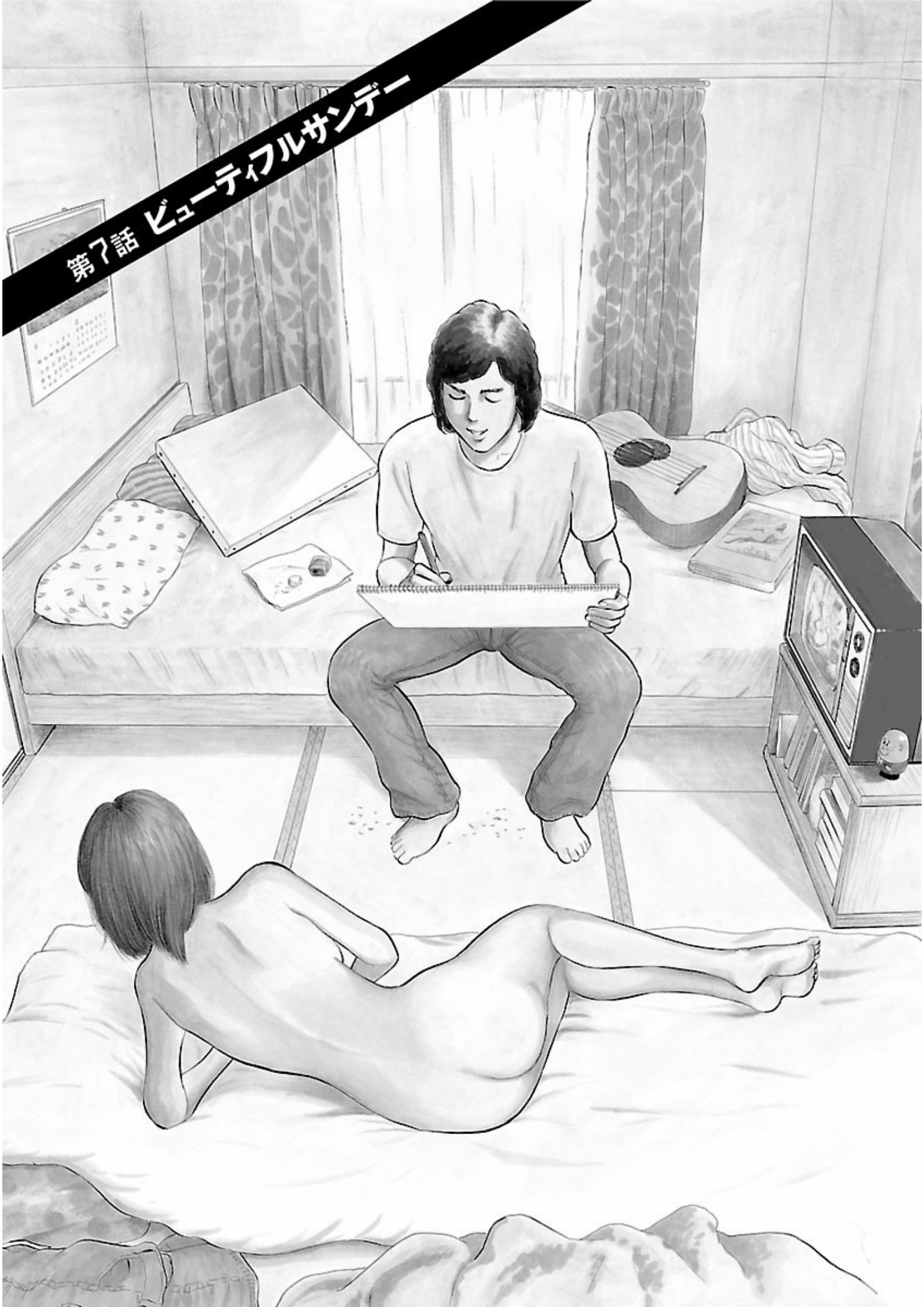
ハァ…
来るなら 来て…
声をかけるなら
かけて…
アア
ン…
ン…
ンン…
ン…
チャク
チュプ
チュプ

チャプ
チャプ


室温は
すでに
真夏




二人
漂う
ソファーの
海
第6話●END


第7話 ビューティフルサンデー

放っとくと
こんなんなっちゃいます

ポルノ・グラフィティ
Porno graffiti

昭和五十一年
とある日曜日

巴荘

スター誕生!!

チャララー♪

描くんだ
ホントに
ヌード!

油絵!

言った
じゃん

欽ちゃん
コーナー
おい
クロベー

油絵の課題があった高三の時は5だったんだぜ美術

また何か描きたくなったんだよ

今度はヌード

明美(あけみ)もいるし

いるしって…

最後までできるかなァ…

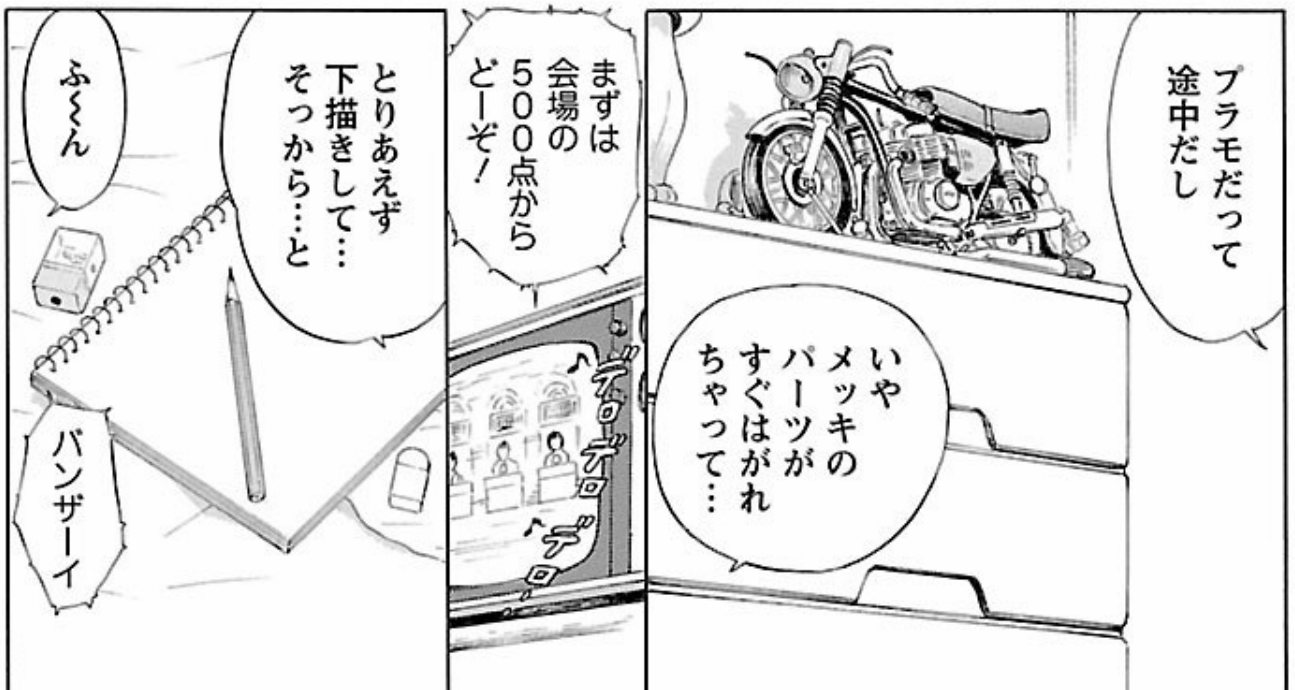
ギターだって覚えないうち

何で？

あんなんなっちゃったしさ

いや近所迷惑かな…と

引っ越す時置いてくりゃよかったんだよ



カチャ

じゃ 脱いで

え〜〜〜 やだ〜〜〜

もう？

どんなポーズか 決めてよ 先に… そっから脱ぐから…

ん〜 ポーズか

そだな

油絵みたいに 色っぽく こう アハ〜〜〜ン て

アハ〜〜〜ン

アハハハッ

ホントに やった

もう!! 笑うんだったら…

ゴメンゴメン

じゃ とりあえず 色々やってみて

そっから 決めるから

ん？

ん？

ん？

おっ

何か のってきた

私は黒ヒョウ

あ〜〜〜〜

わかんないや
やっぱ
服着たまんまじゃ

んじゃ 下着までね

それで
ポーズ決めて

うん

クイズ
ドレミファド〜〜ン

ムラッ

シュル…

シュ…

ムラ

ムラ

ん…？

シュ…

司会は高島

イエ〜〜イ

脚 開いてよ
やだ〜〜〜
じゃ ちょっと ヒザ倒して
そうそう

…
ん〜〜〜 ちょっと 変化 つけて…
こっちを こう…
上に…

やっぱ ここ 少し開いた ほうが
上に…
ン…

ん〜〜〜 こんな開いちゃうか……
ん…？
あれ ナプキンは？

終わったの？
うん…ゆうべのうち終わってたね
何だ じゃ昨日できたんじゃん
ア…ン
さわらして…
やだ…
何で？
欲しくなっちゃう…
俺も欲しいよ…
昼間っから…？
うん
やっぱ 絵を描くにはさァ…
ハァ…
雑念取り払わないと…
雑念…？

煩悩というか…

煩悩…

アッ

カーテン閉めないと…

見えないって…

ハァ…

ハァ…

キャーハハ…

キィーン

ゴー

ケケケケ

ガ〜

ガ〜

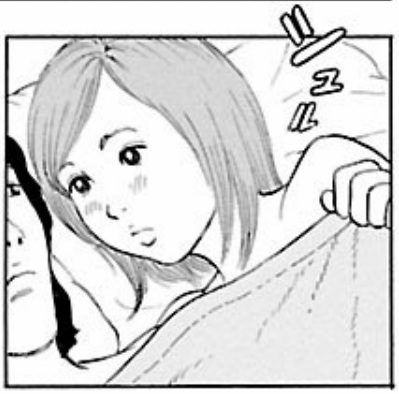
バラバラガラガラ…

あったかいね…

うん あったかい

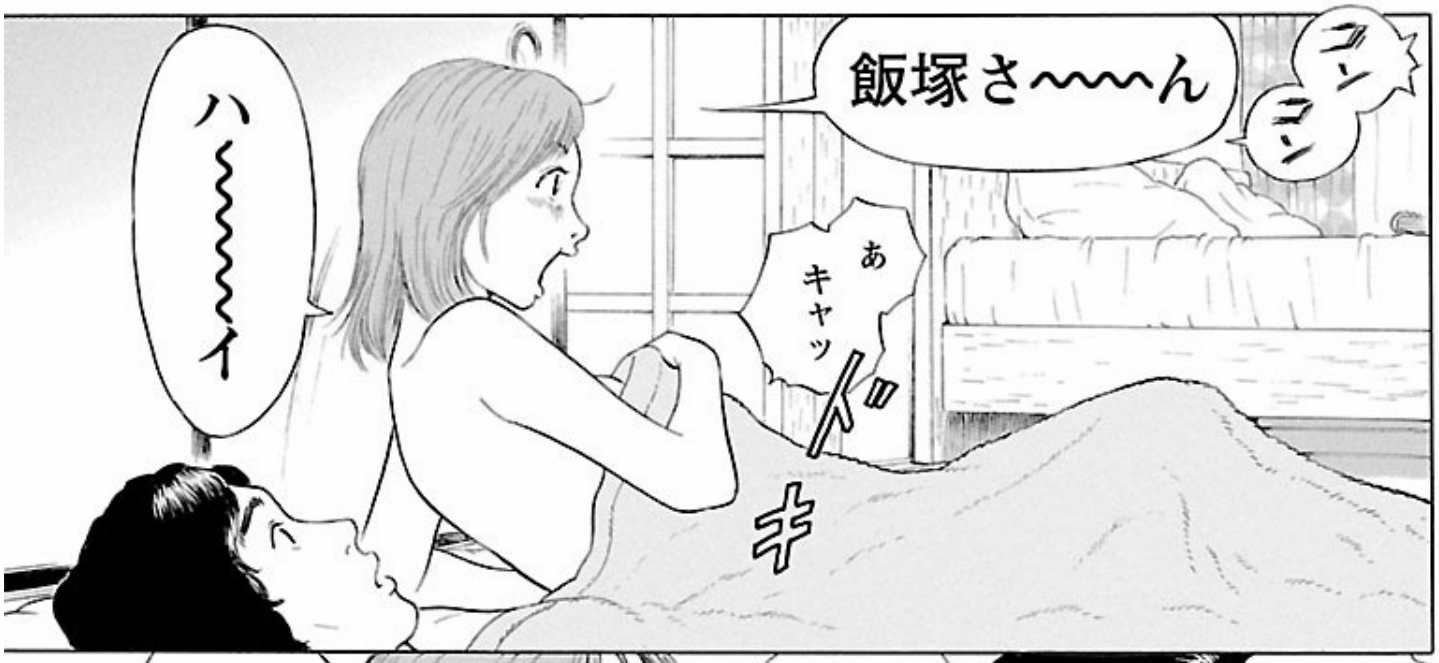
アッ
コウちゃん
明美
明美…
大丈夫だよね
つけなくて…
…知らないよ…
アッ
もう少し
さわって…
だめだよ
もう…
ウッ
アッ
ア…
ア…
アッ…
CMです
マルハーイ!!
お、新車ですか
お、どーも
アッ
ウッ

早〜〜〜い
ミュル
しょうがないか泊まりがけの仕事と生理がくっついて久々だし


ミュル

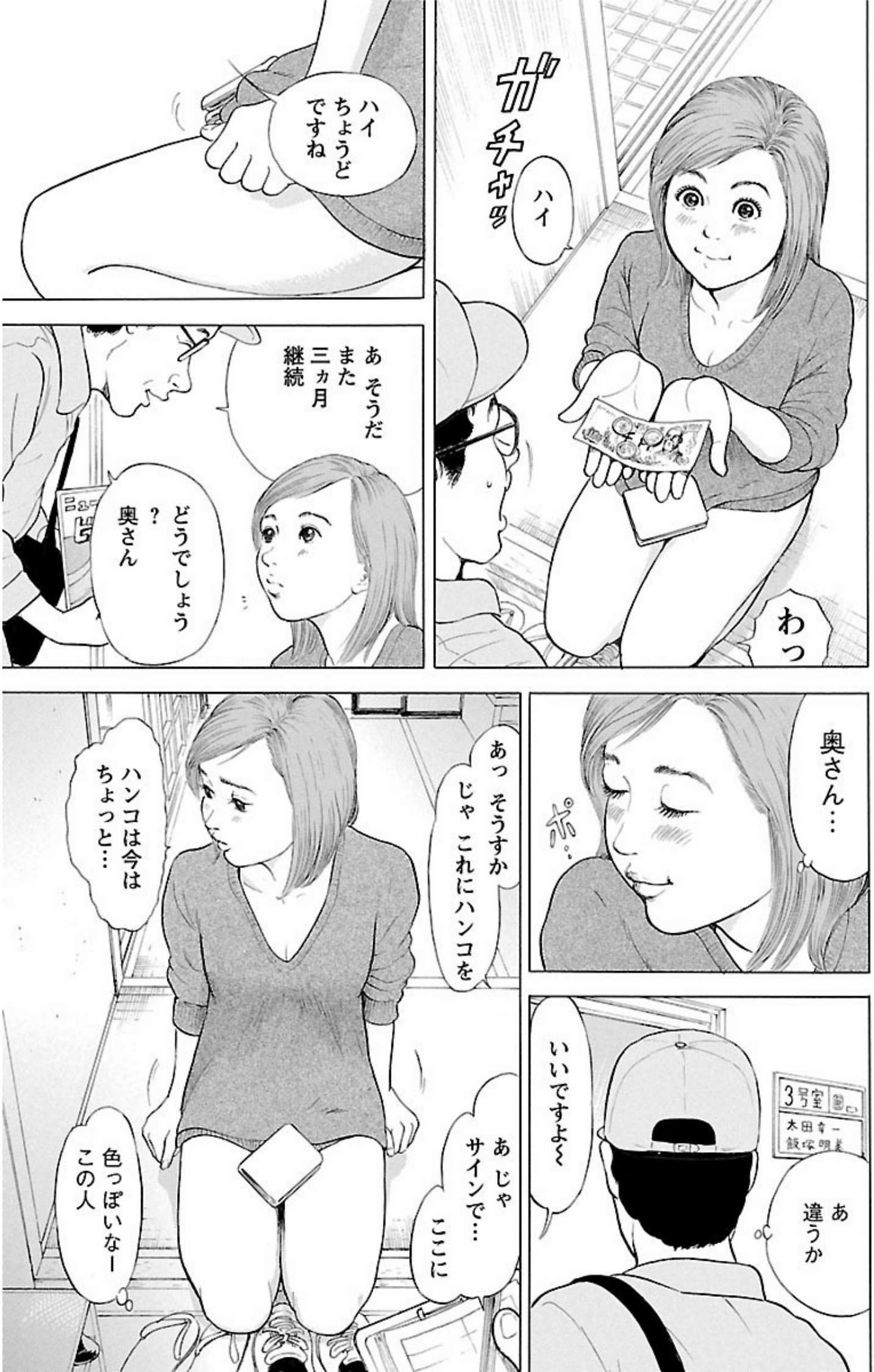
コウちゃん
ん

も一回して！
え〜〜〜


ゴンゴン
飯塚さ〜〜〜ん
あ
キャッ
ハ〜〜〜〜イ

バカ お前居留守使えば…
あ そうかでも返事しちゃったし
どちら様〜〜〜〜？

新聞の集金ですー
ゲイ
グ
あ――集金だブラジャーブラジャー
どこ？
いいからもうセーター着ちゃって！
早くすましてん
あパンツないパンツ
いいよもうそれでワンピースに見えるよ
そそう？
おいくらですかぁぁぁぁ？
えっと…
あぁぁぁぁっ
ホントに行っちゃった
1,300円です
1,300円…と
カチ
どうぞ――
どうぞ？


ガチャッ
ハイ
わっ
ハイ ちょうどですね
あ そうだ また 三ヵ月 継続
どうでしょう？ 奥さん
奥さん…
ポ…
3号室
太田幸一
飯塚明美
あ 違うか
いいですよ～
あっ そうすか じゃ これにハンコを
ハンコは今は ちょっと…
あ じゃ サインで… ここに
色っぽいなー この人

えと どっちの…？
イイヅカ ですね
イイヅカ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハイ 毎度〜〜
お疲れ様――
カチャ
あ… コウちゃん…
ワキャ…
次は となり
シ〜〜〜
後ろへ…

イントロクイズ
ドレミファドン！
1300円になります
ン…
ンン…
700円のおつりー
毎度
ハァ
ハァ…
ン…
ドン
ドン
イン

ア――
トン
トン
トン
プルッ
ウルトライントロ
ウルトラ
ドン
プ
アッ
シ～～
ハァ…
ア…
ア…
ア…

最近コウちゃん後ろからが多くなった…
ハァ
…ア…
すごいな明美の…
めくれ返ってきて…
ア…
ア…
超ウルトライントロ…
超ウルトラ・ドン！
ピッポ
ハァ
ハッ
ハッ
NSP「夕暮れ時はさびしそう」
超ウルトラ・ドン
ピッ
バンバン「いちご白書をもう一度」
ア…
ア…
ア…

超ウルトラ
ドン
吉田拓郎
「結婚しようよ」
「結婚しようよ」
ア…
ハッ
ハッ
ア…
ア…
ア…
アン…
ハ…
ア…
アッ
アッ
ア
アアッ
アア
正解――
イエ～～～
アアッ
ウア…

超ウルトラドン
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
「ルージュの伝言」
「ルージュの伝言」
見て聞いて参加する日曜…
1時15分は生放送
TV
ジョッキー
日曜大行進
奇人変人コーナーはですね…
白いカベ～
赤い屋根～
今度は作詞作曲始めたか
緑の～原
オ・オ・オ・

♪オオカミィ〜〜〜♪

プ…クク…

♪俺は

オオカミー♪

ハイじゃ白いギターとエドウィンの…

パチパチ

…んでも…♪

ヤギ

プハハハハハ——

何だそりゃ

あ笑ったな

もうまだー

つづき!!

ゴメンゴメン

えと…クク…

珍人集合——

まだ笑ってる

サッ
そ脚…もうちょっとこう
クク…
ほら顔！
うん
さァ今週の珍人は～
チラ
ぜっぺきィ～～～
ボ
ヒョ

ア――
ハヒャヒャヒャ
あ
もう
ん～

ゴ…ゴメン…
クク…
クク…
…県からやって来たキョーフのゼッペキ17才
そんなおかしいかこれ
ほらっ!!

う…うん
マジメにマジメに
チラ
あカワイイ
ぜっぺきィ～～～
ボ
ヒョ

アキャハハハ
あもう〜
アハハハ
ダメ
ダメ ダメ

クク…クク…
ヒ…
ヒ…タムム…
あっこれもいいかも
ムニッ

あ〜ダメクク…
ちょっとトイレ行かせて…

キイ…
バタン

プハハハハハ
まだ…

バラバラバラバラバラ

コク…
コク…

見ても見なくてもどうでもいい番組

おばあちゃん このヒモノは何ですか〜？

ヒラメでし

ん〜〜〜〜

ニャッ

ニャッ

毛書いていいのかな

しかしこう…

ここ描いてると何かこう…ムラッと…

さすがに3回目は嫌がられるかな…

あ脚開いてきた…

いかん

バサッ

トイレ行ってくる

気を静めに…

ハッ

チラ

ドドッ

コト

コト

ガチャ
あっ
ンもう〜〜〜〜
ゴメ〜〜〜〜ン
ポーズが変わっちゃうってあんだけ もうー

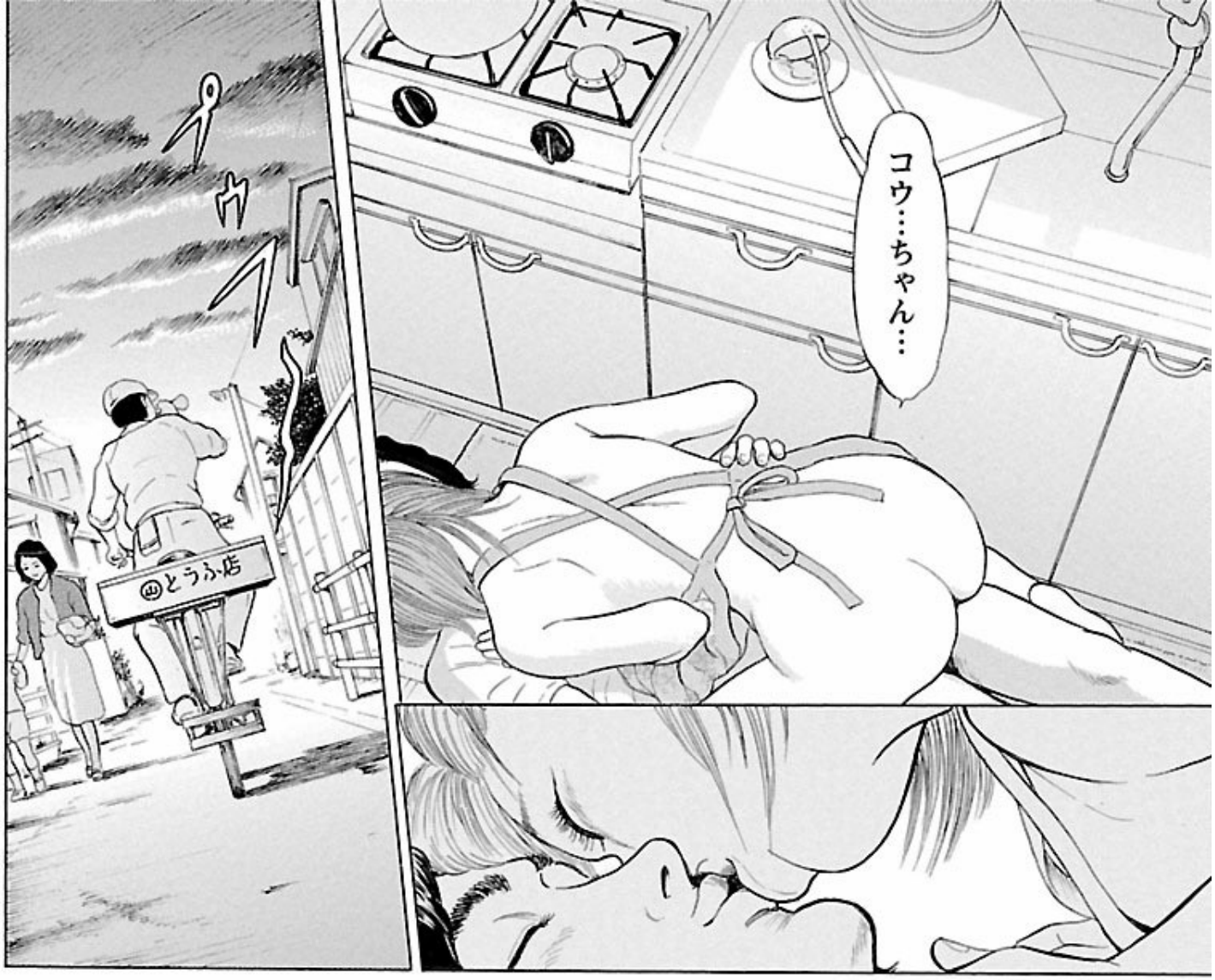
でも もうルー入れないと
ん…と
ポキ
チャポ
チャポ
…んフン

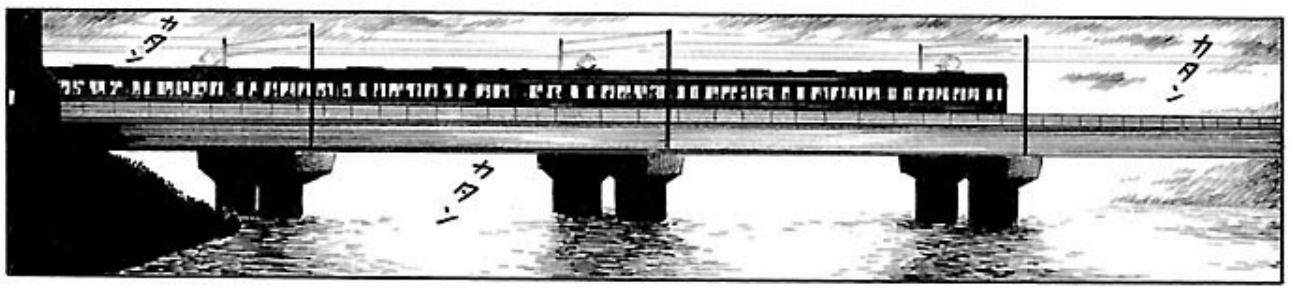
後は弱火でコトコトと…
ジ〜〜

ン…
また…？
奥さん…
チュッ
やだ…
ア…
だって…
ア…
ハァ…
ア…
ア…
ン…
ジュボボ…
何と器用な
あ肩…
うん…
ハァ…
アッ
もう…
アッ

アッ
ブンメカ
チャカチャカ
パッパ
アッ
アッ
あくそ
あ
笑点始まっちゃった
明美
明美
アッ
上手い…
コウちゃん
コウちゃん
明美〜
あ
腰痛い
うん…
ハッ
アッ
ハッ
ン…
見せて…
金も
いらなきゃ
女もいら…
アッ

ン…
さわって…
コウちゃん…
ン…
アッ
どこを…？
ア…
そこ…
アア…
アッ
アッ
アッ
……ア…


コウ…ちゃん…
とうふ店


カタン
カタン
カタン

よし
これで
来週からは
色塗って…
塗るんだ
ねェ
タラちゃん!
いいですー

あらカツオ！ワカメ知らない？
あっネェさん
ん～～～
トイレの落書き…
プッ
便所の落書きだな
アハハハハハ
おやそれは肯定の笑いだね
皇帝の笑い…？
ホホホホ
何だそりゃ
あハイクラウンチョコ食べたくなった
何故!?
HI CROWN

で題はどうすんの？

「アパートで寝る女」……？

題…

ん〜〜〜〜

「妻」…かな

…

ふ〜〜〜ん

さーて来週のサザエさんは――

二人共照れた

第7話●END

Porno graffiti

初出

第1話　漫画アクション …… 2007年7月17日号
第2話　漫画アクション …… 2007年9月18日号
第3話　漫画アクション …… 2007年11月20日号
第4話　漫画アクション …… 2008年1月8日号
第5話　漫画アクション …… 2008年2月19日号
第6話　漫画アクション …… 2008年3月4日号
第7話　漫画アクション …… 2008年4月15日号

ACTION COMICS

ポルノ・グラフィティ 1

2008年7月28日　第1刷発行

著者　とみさわ千夏

発行者　赤坂了生

発行所　株式会社双葉社
〒162-8540東京都新宿区東五軒町3-28
TEL.03-5261-4851(編集) 03-5261-4818(営業)

装丁　名和田耕平デザイン事務所

印刷所　三晃印刷株式会社

http://www.futabasha.co.jp/
(双葉社の書籍・コミックが買えます)

©Chinatsu Tomisawa 2007　Printed in Japan.
ISBN978-4-575-83505-2　C9979

この作品はフィクションです。
実在する人物・団体などとはいっさい関係ありません。

デジタル版　2012年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com